平成２５年度

「基礎学力調査」

― 分析･考察 ―

平成25年10月

石川県教育委員会

目　　次

本書の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1　教科に関する調査について

2　質問紙調査について

Ⅰ　教科に関する調査結果の分析・考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

《小学校第４学年　国語》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

《小学校第４学年　算数》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

《小学校第６学年　社会》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

《小学校第６学年　理科》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

《中学校第３学年　社会》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

《中学校第３学年　理科》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

《中学校第３学年　英語》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６

Ⅱ　質問紙調査結果の分析・考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３

1　小学校第４学年児童の調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５

2　学習・生活状況と正答率との関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１

3　教員の調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６３

本書の構成

1　教科に関する調査について

（1）全体的な傾向の分析・考察

・全体的な結果の状況

（2）領域・分野ごとの分析・考察

・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正　答　率	「到達状況」を示す記号，用語
90%を上回っている場合	◎：良好である
80%～90%の場合	○：概ね良好である
70%～80%の場合	◇：基準に到達している
60%～70%の場合	▽：十分とはいえない
60%を下回っている場合	▼：不十分である

・領域・分野ごとの結果の状況，分析・考察及び今後の指導の方向性

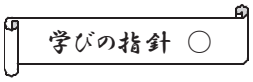
・「指導改善のポイント」

（3）改善に向けた指導事例

・教科ごとに，改善に向けた指導事例を２事例記載し，以下の内容を示す。

	項　　目	内　　容
①	問題と解答の状況	・設問番号，領域・分野，出題のねらい，評価の観点 ・関連問題 ・正答例，誤答例，正答率，誤答率，無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年，単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

・関連する「いしかわ学びの指針１２か条」の項目を次のように示す。



2　質問紙調査について

（1）小学校第４学年児童の調査結果

・設問ごとの経年比較，学年間比較

（2）学習・生活状況と正答率との関係

・正答率との関係を基にした分析・考察

（3）教員の調査結果

・設問ごとの調査結果

Ⅰ　教科に関する調査結果の分析・考察

小学校　第４学年

「国語」「算数」

小学校第４学年　国語

平均正答率
74.4%

（１）全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は74.4%で，昨年度に比べ6.6ポイント低下しているが，基準に到達している。今年度新たな出題形式にした「話すこと・聞くこと」は，問題の意図を十分に把握できなかったこともあり，低下した要因の一つとして考えられる。また，「読むこと」の説明的文章の段落相互の関係を理解することや，「書くこと」の伝えたいことを明確にして文章を構成する力なども課題として挙げられる。

（２）領域・分野ごとの分析・考察

【話すこと・聞くこと（73.0%）】

◇：話の内容に気を付けて聞き，質問したり感想を述べたりすること〔一３〕

設問一３は，話し手への質問や感想の内容を問う問題で，平均正答率は79.5%と基準に到達している。

設問番号		問題の内容	正答率
一	３①	質問や感想の内容	91.2%
	３②	質問や感想の内容	74.5%
	３③	質問や感想の内容	72.7%

今後も，話の内容や話し方に関心をもち，疑問に思ったことを質問したり自分の感想や意見を述べたりする機会や，目的に応じて，自分の経験と結び付けたり，自分の考えと比較しながら聞いたりすることができるように話の要点を捉えて聞く機会を意図的に設定し，指導することが大切である。

【書くこと（68.4%）】

○：条件に応じた字数で書くこと〔七２条件〕

設問七２は，80字を超えて書く問題である。正答率は昨年度に引き続き80%を超え，概ね良好である。条件に即して書く指導が，意図的・計画的に行われてきた成果であると考える。

設問番号		問題の内容	正答率
七	２条件	相手や目的に応じて適切に書く	84.8%

▼：書こうとすることの中心を明確にし，相手や目的に応じて適切に書くこと　〔七１〕

設問七１は，報告文の内容に適した見出しを選択する問題である。正答率は44.9%で不十分である。「文章の内容」と「見出し」の関連付けや，文章全体の構成を意識して書くことについて，十分に理解できていないことが要因と考えられる。

設問番号		問題の内容	正答率
七	1	書こうとすることの中心を明確にする	44.9%

指導に当たっては，「はじめ・中・おわり」の文章の展開に即して，各段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章の構成を考えさせる指導の工夫を図ることが大切である。また，必要に応じて「中」の内容を分かりやすく説明するために例をいくつか挙げたり，カード等を用いて情報を分類・整理したりするなど，まとまりを意識して書かせる指導の工夫が必要である。

（H22「分析・考察」事例１参照）

【読むこと（66.6%）】

▽：段落相互の関係を考え，文章を正しく読むこと〔二１〕

ここ数年の指導の成果により，「問い」と「まとめ」の照応や，「はじめ・中・おわり」の文章構成を捉える力は付いてきた。

しかし，二１(2)の「中」の部分に書かれ

設問番号		問題の内容	正答率
二	１(1)	段落相互の関係	76.2%
	１(2)	段落相互の関係	48.7%

た内容を大きく２つのまとまりに分けることにおいては，正答率が 48.7%であり，課題である。

今後も，読む目的に応じて，中心となる語や文に注意して要点をまとめたり小見出しを付けたりするなど，内容を整理し，段落相互の関係を考えながら文章を読む学習を継続的・系統的に指導する必要がある。また，説明的文章と関連付けて書くことを指導する際にも，構成に着目できるような指導の工夫が必要である。

（H22「分析・考察」事例２参照）

▽：目的や必要に応じて，段落の要点や細かい点に注意しながら読むこと〔二２，３，４〕

設問二２・３は，目的に応じて，文中の言葉を抜き出す問題である。正答率はそれぞれ 59.6%，74.1%であり，理由を抜き出す問題に課題がある。設問二４は，読み取ったことを図と関連付けるものであり，これまでになかった問題であるが，正答率は 74.5%と基準に到達している。

設問番号		問題の内容	正答率
二	2	説明的文章の内容理解（理由）	59.6%
	3	説明的文章の内容理解（感想）	74.1%
	4	説明的文章の内容理解（要点）	74.5%

今後も，文章の中心となる事柄を捉えること，考えや感想をもつようになった根拠となる叙述などの細かい点に注意しながら読むことを指導する必要がある。（H23「分析・考察」事例２参照）

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（80.4%）】

○：主語と述語の関係を理解して，文中から抜き出すこと〔三２〕

主語と述語の照応関係については，基礎学力調査で数年間課題となっていたが，昨年度に比べ，更に 12.1 ポイント上昇し，到達状況は概ね良好となった。これまでの継続的な指導が成果として現れたものと考える。

設問番号		問題の内容	正答率
三	2	主語（キツネは）述語（会いました）	89.6%

今後も引き続き，「主語」「述語」などの用語を意識的に使うとともに，修飾と被修飾との関係などの文の構成について理解させたり，「だれが」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などの観点に基づいて，文を分析的に捉えさせたりする指導を充実していくことが必要である。（H18・19「分析・考察」指導事例２参照）

▼：文脈に応じた語句の意味を辞書から抜き出すこと〔三１〕

設問三１は，昨年度より８ポイント上回り改善が見られるものの，依然として課題である。「はたをあげる」の意味として「相手にわたす」を選んだ誤答が多かった。

設問番号		問題の内容	正答率
三	1	辞書の使い方（語句の意味）	57.0%

指導に当たっては，国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解させるとともに，必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような学習環境を整えることが重要である。また，文脈に応じて，語句の意味を推測したり辞典の複数の定義の中から適切に選び出したりする経験を積み重ねていくことが大切である。

（H24「分析・考察」事例２参照）

指導改善のポイント

□目的に応じて必要な情報を取り出し，段落相互の関係を考えながら文章を読むこと　（→事例１）
□相手や目的に応じて書こうとすることの中心を明確にし，構成を意識して自分の考えが伝わるように書くこと　（→事例２）

※下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

学びの指針1

ア　事例１
　目的に応じて必要な情報を取り出し，段落相互の関係を考えながら文章を読むこと

①問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
二 1(2)	読むこと	段落相互の関係を考え，文章を正しく読むことができる。	読む能力

二 1(2)　3段落から8段落には，大きく二つの内ようが書かれています。二つ目の内ようが書かれているのは，何段落からですか。あてはまる段落の番号を，□ に書きましょう。

正答	誤答例	
5	6　7　4	
正答率	誤答率	無解答率
48.7%	48.9%	2.4%

②　指導改善に向けて

誤答の多くは，６つの段落を前後半分ずつに分けたり，「では」という接続語に着目したりしたものであった。原因として，「中」には「問い」に対する具体例が書かれていることの理解や，中心となる語や文に注目した読みができないことが考えられる。

指導に当たっては，「はじめ・中・おわり」の役割を，内容と関連させながら理解させることが大切である。その際，目的に応じて，中心となる語や文に注目して要点をまとめたり，小見出しを付けたりするなどして，内容を整理することが大切である。また，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（１）イと関連付け，指示語や接続語，文末表現に注意して読ませることも必要である。

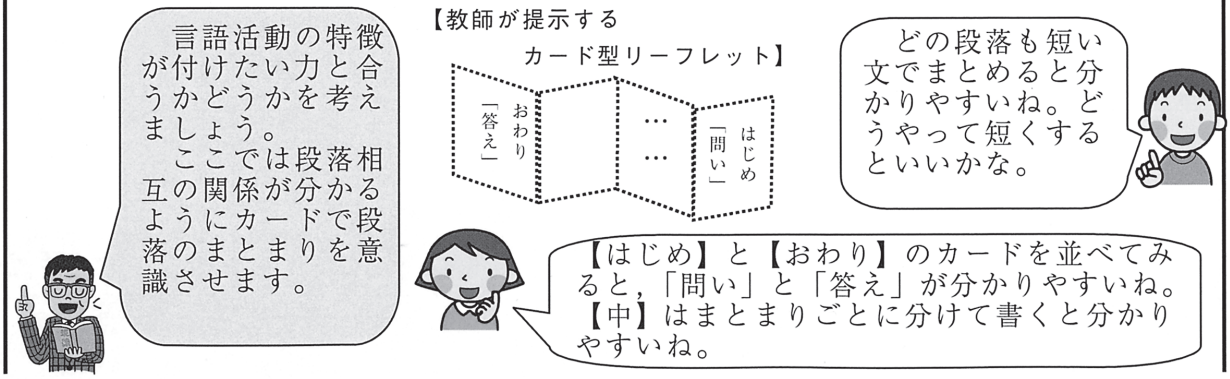
③　改善事例　第３学年　　『イルカのねむり方』『ありの行列』（光村三年上）

1　指導のねらい

・目的に応じて，中心となる語や文を捉え，段落相互の関係に注意して読む。（読むことイ）
・目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読む。（読むことエ）

2　具体例

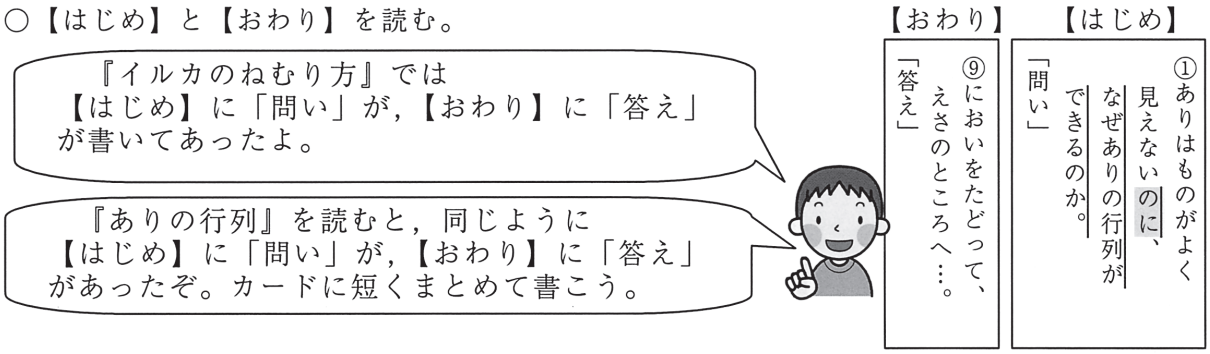
第一次　ありの行列ができるわけをカード型リーフレットにまとめ，「低学年に紹介しよう」という学習課題を設定し，学習の見通しを持つ。



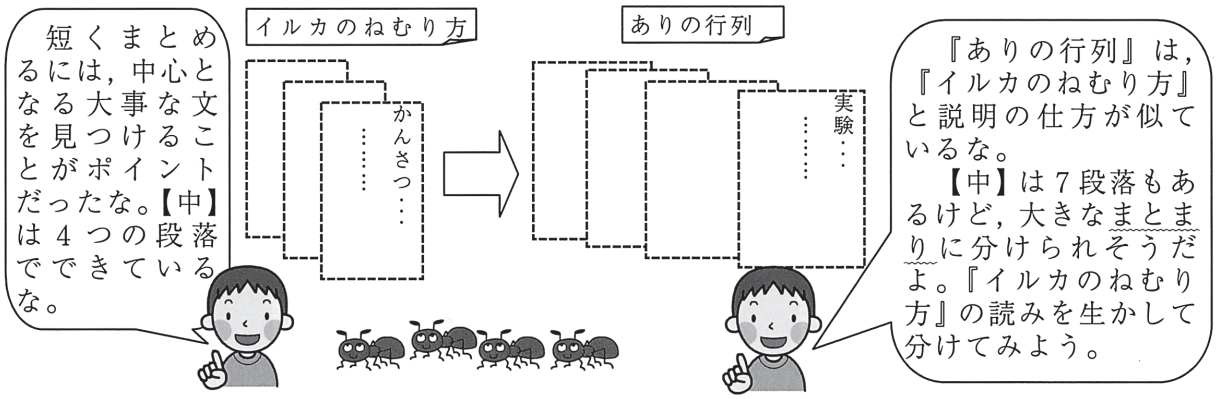
第二次　『イルカのねむり方』の読みを生かして『ありの行列』を並行して読む。

(1)段落相互の関係に注意して読む。

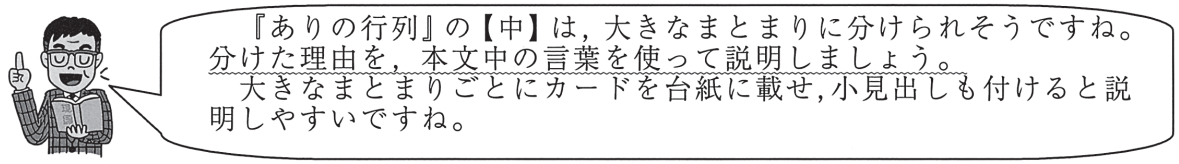
○【はじめ】と【おわり】を読む。

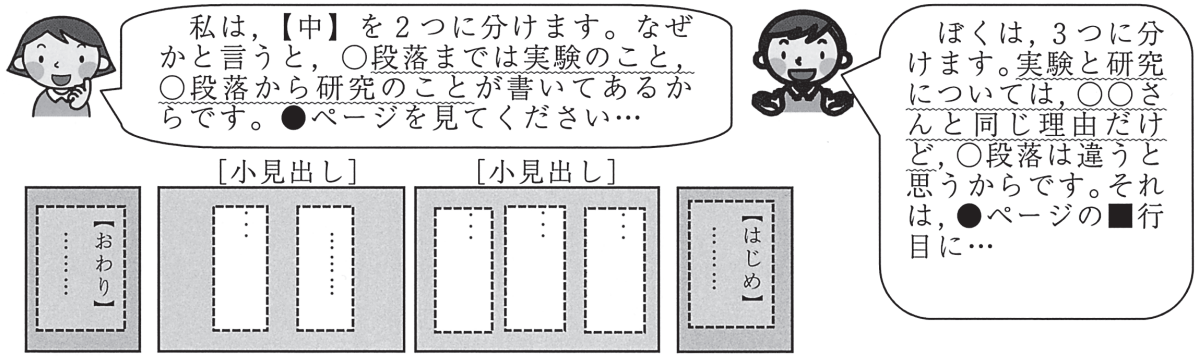


○【中】の段落を読む。



（２）段落の要点をもとに段落相互の関係を捉える。





○カード型リーフレットを作成する。

第三次　カード型リーフレットを低学年に紹介する。

学びの指針1

イ　事例2

相手や目的に応じて書こうとすることの中心を明確にし，構成を意識して自分の考えが伝わるように書くこと

①　問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
七 1	書くこと	文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。	国語への関心・意欲・態度 書く能力

七　1　【組み立て】のはじめの，［①］にあてはまる言葉を次のア～エから一つえらび，その記号を［　］に書きましょう。

ア　お店ではたらく人　　イ　お店の名前

ウ　仕事のしゅるい　　エ　見学の目てき

正　答	誤答例	
エ	ウ　ア　イ	
正答率	誤答率	無解答率
44.9%	51.6%	3.5%

②　指導改善に向けて

誤答では，ウの「仕事のしゅるい」を選択した児童が最も多かった。文章中に使われている一部の言葉（仕事）にだけ着目し，それに合った見出し（仕事のしゅるい）を選択したものと思われる。報告文を書くという相手意識や目的意識が不十分な点，【組み立て】をもとに【文章】を書くという学習経験の少なさなどがうかがわれる。

今後の指導に当たっては，様々な文章の様式を用いながら，相手や目的に応じて書く活動を繰り返し経験させることが大切である。その際，「伝えたいことを明確にした」取材活動や文章構成，表現方法の工夫などについて，教材文をモデルに具体的に指導することが必要である。交流場面では，付けたい力を評価の観点とし，書き手の思いや考えが効果的に表現されているかどうかを，読み手の立場で評価することが重要である。

③　改善事例　　第3学年　　ほうこく書を書こう「本で調べて，ほうこくしよう」（光村三年下）

1　指導のねらい

・生活の中から調べたいことを決め，必要な事柄について本を読んで調べる。（書くことア）
・自分の考えが明確になるように，文章の構成を考え，まとまりに分けて書く。（書くことイ）
・書こうとすることの中心を明確にし，必要に応じて理由や事例を挙げて書く。（書くことウ）

2　具体例

①指導計画を立てる際には，本単元で付けたい力を焦点化することが大切です。評価の観点とも関連させましょう。
②単元の初めに，どんな活動でどんな力を付けるか，児童と共に学習計画を立てることで，相手意識や目的意識をもたせ，意欲的に学習に向かわせることができます！

そこで

本単元のポイント2点！
①特に，書くことイ・ウに焦点化すること。第三次の交流活動でも評価の観点とすること。
②学級のみんなに，報告書を通して自分が調べたことを分かりやすく伝えること。

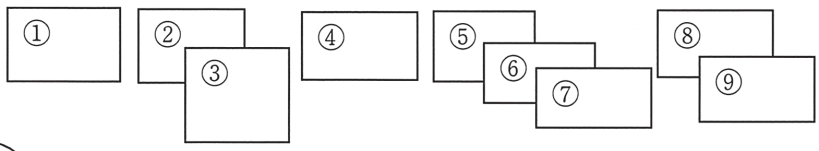
第一次　単元のねらいを知り，報告書を書くめあてや学習の見通しを持つ。

ぼくは，昆虫が好きだから，テーマはコオロギにしよう。コオロギがどのようにして音を出すのか調べて，みんなに分かりやすく伝えたいな。

第二次　百科事典や図鑑などの本を使って調べた情報を整理し，分かりやすく伝えるための報告書の構成を考え，調べたことや考えたことなどを書く。

カードを用いたり，構成表を作成したりしながら学習を進めてもいいですね。

○必要な情報を得るために，百科事典や図鑑などの読み方を理解し，収集した情報を整理する。



①から⑨までのことが分かったから，みんなに全部知らせたいけど…。全部は多いかも。

テーマは，「どのようにして音を出すのか」だから，音を出す仕組みに関係ある①のことは必ず書いておかないと，「問い」と「答え」にならないよ。

あとは，何をまとめると分かりやすい報告書になるかな。②かな。②を選ぶと，③も関係するから書いた方がいいな。③の文章は長いから，どうやってまとめようかな。

○教材文の〈報告書の型〉〈報告書〉をモデルとして，報告書を作成する。

モデル

教材文の〈報告書の型〉	教材文の〈報告書〉

（光村三年下 p93・94 参照）

調べることにした理由やきっかけは，最初に書けばいいのかな。調べ方も書いた方がいいかな。〈報告書の型〉で確かめてみよう。

番号を使って書くと読みやすいよ。どんな順番に書くと分かりやすいかな。文の終わりも工夫してみよう。

自分が作成した〈報告書〉

コオロギはどのようにして音を出すのか

3年1組　　石川太郎

はじめに

　コオロギがどのようにして音を出すのか調べることにした。それは，…… が不思議だと思ったからだ。

　調べ方は，図書館にあった …… を使うことにした。

分かったこと

1　コオロギは，…… で音を出す。

2

終わりに

　コオロギは，羽をこすり合わせて音を出すことが分かった。…… 。セミとは違う仕組みで　……

〈使った本〉

まずは，自分で得た情報を分類・整理することで，情報をまとまりで認識できるようにしていきましょう。また，構成したことをどのように文章化していけばよいか教材文のモデルで理解させ，報告書の書き方をイメージさせましょう。

第三次　報告書の書き方について，友だちと交流する。

石川さんの報告書は，「問い」と「答え」が分かるように書いてあったよ。文の終わりは，「～した」「～だ」にあわせてあったよ。

　また，みんなで調べたことを報告書にまとめてみたいな。

石川さんは，私と同じ昆虫がテーマだったけれど，石川さんはコオロギが音を出す体の仕組みを，番号を使って順番に書いてあったから，読みやすかったよ。次は，私も使って書いてみるね。

交流活動では，付けたい力を評価の観点とすることで，書き手の考えの明確さなどについて意識させることができ，次の書く活動の意欲にもつながります。

小学校第４学年　算数

平均正答率
67.9%

（１）全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は67.9%で，昨年度より 4.3 ポイント下がっている。活用力を問う問題が全体的に難化したこと，場面と図を関連付ける設問を新たに出題したことなどがその要因だと考えられる。「量と測定」の領域の正答率は70%を上回り，改善傾向が見られる。

（２）領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算（77.3%)】

◎：基本的な加減計算〔１(1)(2)〕

設問１(1)(2)整数の加減計算は，正答率が 90%を上回っており良好である。

設問番号		問題の内容	正答率
1	(1)	繰り上がりのない加法計算	96.7%
	(2)	波及的繰り下がりのある減法計算	90.7%

今後も，計算の意味や計算の仕方を考える学習を行うとともに，基礎的な計算技能の習得・習熟を図る時間を確保することで，確実に定着させることが大切である。

▼：帰納的な考え方を用いたきまりの読み取り〔８(3)〕

設問番号	問題の内容	正答率
８(3)	帰納的な考え方を用いたきまりの読み取り	31.2%

設問８(3)は，昨年に引き続き出題したが，正答率は31.2%と不十分で無解答率も高い。設問の問い方に難解な部分があったことが原因の１つだが，誤答には，８(2)のきまりをそのまま答える解答が多かったことから，文意を正しく捉え，何を問われているのか理解できなかったことも原因と考えられる。

指導に当たっては，昨年度の指導事例等を参考に，低学年のうちから様々な学習場面で帰納的な考え方を身に付けさせるとともに，きまりや共通性を的確に表現させることが大切である。

(H24 「分析・考察」事例１　参照)

【量と測定（72.5%)】

◇：身近なかさの量感覚〔３(1)〕

設問３(1)の正答率は 75.5%と，昨年度同様，基準に到達している。

設問番号	問題の内容	正答率
３(1)	身近なかさの量感覚	75.5%

今後も，量の感覚を豊かにするために，日常生活との関連をより密接にし，身の回りにある様々な量を，単位を意識しながら予想したり，比べたり，調べたりすることが大切である。

▼：全体・容器・正味の重さの関係を読み取り，不足分の重さを計算すること〔５〕

設問番号	問題の内容	正答率
5	全体・容器・正味の重さの関係の読み取り，不足分の重さの計算	44.7%

設問５は３年連続出題しているが，正答率が 44.7%で，一昨年度の 41.6%，昨年度の 43.5%に引き続き不十分である。誤答の中には，文章や絵図から必要な情報を読み取っていないものや，数量の関係を正しく読み取っていないものが多く，改善が見られない。数量の関係をテープ図等に表して，正確に捉える力の育成が必要であると考えられる。

指導に当たっては，文章や絵図等から問題解決に必要な情報や数量を読み取り，その数量の関係をテープ図等に表す活動を充実させ，事象の構造を明らかにしてから問題解決する力の育成が必要である。

(H23 「分析・考察」事例２　参照)

【図形（34.5%）】

▼：正方形と直角三角形や二等辺三角形を関連付けて考えること〔6〕

設問番号	問題の内容	正答率
6	正方形と直角三角形や二等辺三角形との関連付け	24.2%

設問6は正答率が24.2%と，昨年度の円と三角形を関連付けた設問と同様に不十分である。それぞれの図形の性質は概ね理解できていると考えられるが，図形相互を関連付けて考える力が不十分である。多くの児童が「ぴったり重なる」ことを選択しており，題意を的確に把握できていないことが正答率の低下に影響している。また，二問で完答が条件であったことの影響も考えられる。

指導に当たっては，折る・重ねる・敷き詰めるなど具体的な操作活動を通して，図形相互を関連付けて考察する指導の工夫が必要である。

【数量関係（59.0%）】

◇：順序数から全体数を求める方法を読み取ること〔3(3)〕

設問番号	問題の内容	正答率
3(3)	順序数から全体数を求める方法の読み取り	70.0%

設問3(3)の正答率は70.0%と，昨年度に比べ3.5ポイント上回り，基準に到達している。この設問のように，例示された「方法」に沿って過不足なく記述し解答する問題については，一定の成果が認められる。授業において学習したことを適用させる場を設定するなど，指導の工夫が図られてきたことが成果につながっている。

今後も，目的や条件に応じた記述力の向上を目指し，題意から「何（事実・方法・理由）」を記述するのかを適切に読み取ることや，読み取った方法に問題の数値などを適用することについての指導をより一層充実させる必要がある。

▽：判断が正しい理由の説明〔7(3)〕

設問番号	問題の内容	正答率
7(3)	判断が正しい理由の説明	64.6%

設問7(3)の正答率は64.6%と，昨年度に比べ19.2ポイント上回り，「理由」を記述する力が徐々に身に付いてきていると考えられるが，十分とはいえない。考え方は妥当であるが，必要な数値（想定される枚数）や言葉（大小比較を示す：少ない，こえられないなど）が不十分な説明もまだ多く見られる。

指導に当たっては，判断が正しい理由を的確に伝えるという相手意識・目的意識をもたせ，根拠を明らかにし筋道立てて説明するためには何が必要な事柄となるのかを指導するとともに，児童の表現を教師が的確に評価し，不十分な事柄を補わせる指導の工夫・徹底が必要である。

▼：二つの数量の倍関係を図に表すこと〔7(2)〕

設問番号	問題の内容	正答率
7(2)	二つの数量の倍関係の図による表現	45.6%

設問7(2)は，昨年度の全国学力・学習状況調査で課題が見られた問題との関連から出題した。正答率は45.6%と不十分である。

基準にする大きさと割合に当たる大きさの判断が難しいという現状に加え，今回の設問のように基準にする大きさと割合に当たる大きさを前後して示したことで，さらに難しくなった。

指導に当たっては，昨年度の指導事例を参考とし，倍の関係を図に表す力を伸ばすために「基準にする大きさ」「割合に当たる大きさ」「割合」を文章から取り出す指導の工夫・充実が必要である。

（H24 「分析・考察」事例2　参照）

指導改善のポイント

□式・図・表・グラフ・文章等で示された情報を正確に読み取り，根拠や筋道を明確にして考えたり説明したりすること　（→ 事例1）

□数量の関係を捉え，図等で表現することを通して立式し問題解決すること　（→ 事例2）

※　下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

学びの指針 1

ア　事例１

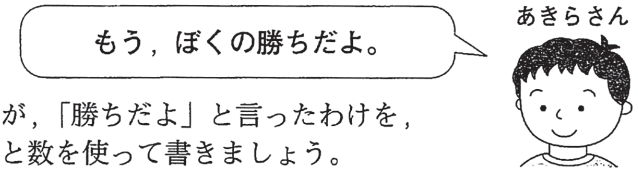
式・図・表・グラフ・文章等で示された情報を正確に読み取り，根拠や筋道を明確にして考えたり説明したりすること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7(3)	数量関係	一方の数量を仮定し二量の大小関係を捉え，判断が正しい理由を説明することができる。	算数への関心・意欲・態度 数学的な考え方

7　あきらさん，ゆきこさん，たかしさんの３人は，カルタ遊びをしています。カルタは全部で５０まいあります。あとの問いに答えましょう。

(3)　カルタ遊びが進み，のこりはあと４まいになりました。あきらさんは２１まい，ゆきこさんは１６まい，たかしさんは９まいとっています。あきらさんは，まだ４まいのこっているのに，次のように言いました。



あきらさんが，「勝ちだよ」と言ったわけを，□に言葉と数を使って書きましょう。

正答例	誤答例	
残りの４枚すべてを，２位のゆきこさんがとっても，20枚にしかならず，あきらさんの21枚をこえられないから。	・ゆきこさんが残りを全部とっても，20枚にしかならないから。 ・残りの４枚すべてを，ゆきこさんがとっても20枚，たかしさんがとっても13枚にしかならないから。	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
64.6%（46.5%）	31.4%	4.0%

② 指導改善に向けて

この設問では，問題文から情報を正確に読み取り，整理することに加え，解答に際して，理由の記述に必要な事柄は何であるかを考えることが大切である。正答率は昨年度より19.2ポイント上昇し64.6%であった。しかし，準正答や誤答の多くは，考え方が妥当であるにもかかわらず，説明に必要な数値（想定される枚数）や言葉（大小比較を示す：少ない，こえられないなど）が不十分であった。

今後の指導に当たっては,表を活用するなど丁寧に情報を整理しながら進めることや，問題解決に必要な情報を教師が意図的に引き出すといった発問が必要である。また，判断の理由の説明に際しては，まず教師が必要な事柄（判断の根拠となる数値や判断の理由となる大小比較を表す言葉等）は何なのかを明確に捉えることが必要である。そして，児童の表現の曖昧な部分を明確にするための発問や，不足している部分を補完するための発問を吟味して，説明に必要な事柄に気付かせていく指導を心がけることが大切である。

③　改善事例　　第３学年＜判断が正しい理由を説明する指導例＞

1　指導のねらい

・判断が正しい理由を，根拠を明確にして説明できるようにする。

2　具体例

情報を読み取り，筋道立てて考え判断が正しい理由を説明する活動

あきらさん，みどりさんの２人は，４～１０の数が書かれた７枚のカードを使ってゲームをしています。カードを１枚ずつ交代に３枚とって，カードの数の合計の大きい人が勝ちになります。

ゲームをはじめると，あきらさんが5と8のカードを，みどりさんが7と4のカードをとりました。

３枚目に，あきらさんが6をとったときに「私の勝ちね！」とみどりさんが言いました。みどりさんは，なぜ自分の勝ちだとわかったのでしょう。

① 文章の情報を読み取る

４から１０までのカードを使ってゲームをします。

３枚とって，合計の大きい人が勝ちです。

問題を読んで，どんなゲームかわかりましたか？

では，あきらさんとみどりさんが　３枚とった合計はいくつかな？

あきらさんは，
５＋８＋６＝19　なので合計は 19 です。
でも，みどりさんは，まだ２枚しかとっていません。

② 課題を確認し情報を整理する

３枚目をとっていないみどりさんが，どうして勝ちだと言えるのかな？

残っているのは，9と１０のカードだけだから，みどりさんが３枚目にとるのは，どちらかのカードだと思います。

表に整理してみると

みどりさん	１枚目	２枚目	３枚目	合計
9の場合	7	4	9	２０
１０の場合	7	4	１０	２１

みどりさんは9をとると合計が 20，
１０をとると合計が 21 になるね。

③ 言葉や数を使って表現する

では，みどりさんが勝つ理由を説明してみましょう。

説明のときに必要なものは？
①あきらさんの３枚の合計（判断の根拠となる数）
②みどりさんの３枚とったときの合計（判断の根拠となる数）
③どちらが大きいか（適切な言葉）

正しい理由の説明

あきらさんの３枚の合計は 19 です。残ったカードは9と１０なので，みどりさんが9をとると合計が 20，10をとると 21 になり，どちらをとってもみどりさんの方があきらさんの合計１９よりも大きくなるから，みどりさんは自分が勝ちだとわかりました。

学びの指針 2

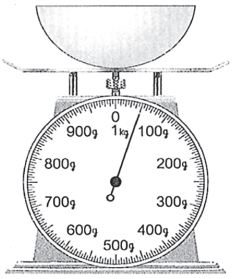
イ　事例２
数量の関係を捉え，図等で表現することを通して立式し問題解決すること

① 問題と解答の状況

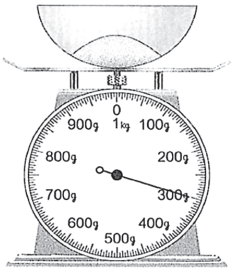
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5	量と測定	全体・容器・正味の重さの関係を読み取り，不足分の重さを求めることができる。	算数への関心・意欲・態度 数学的な考え方

5　ケーキを作るために，小麦粉が４００ｇ必要です。最初に入れ物だけをはかりにのせると，はかりの目もりは**図ア**のようになりました。次に，小麦粉を入れると，はかりの目もりは**図イ**のようになりました。小麦粉は，あと何ｇいりますか。式と答えを［　　］に書きましょう。

図ア



図イ



式

答え　　ｇ

正答例	誤答例	
・400+50=450　450−300=150 ・300−50=250　400−250=150 ・400−300=100　100+50=150 （答え）150（g）	・400−300=100　（答え）100(g) ・300−50=250　（答え）250(g)	
正答率（準正答率）	**誤答率**	**無解答率**
44.7%（3.9%）	53.0%	2.3%

② 指導改善に向けて

この設問では，図のはかりから入れ物の重さと正味の重さを読み取り，更に問題文から残りの小麦粉の重さを求める必要がある。誤答の多くは「100(g)」「250(g)」と解答しており，正答率は44.7%と不十分であった。その原因として，始めに「正味の重さ」を求め，更に「足りない重さ」を求めるという二段階の思考が必要であったにもかかわらず，「正味の重さ」だけを求めていたためだと考えられる。

一昨年度「正味の重さ」を求める活動を事例として示したが，更に改善を図るため，数量の関係を正しく捉える指導が必要である。

そこで，今後の指導に当たっては，全体の重さ，入れ物の重さ，正味の重さといったそれぞれの数量に着目し，その関係をテープ図等に表し順序立てて考える活動を通して，「求める重さ」を「全体」と「部分」の関係から捉え理解させることが大切である。

③　改善事例　　第３学年＜重さ＞

1　指導のねらい

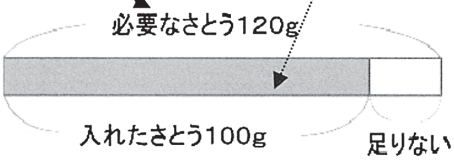
・問題から必要な情報や数量を読み取り，それらの関係を正しく捉え順序立てて考えることができるようにする。

2　具体例

（１）数量の関係を図や式に表す活動

レベル１　ケーキを作るためにさとうが１２０ｇ必要です。さとう１００ｇを入れものに入れました。さとうは，あと何ｇいりますか。

テープ図にかいてみるね。



テープ図を見ると
必要なさとうの重さから入れたさとうの重さをひくと足りないさとうの重さ　だから
１２０－１００＝２０　だ！　答え　２０ｇ

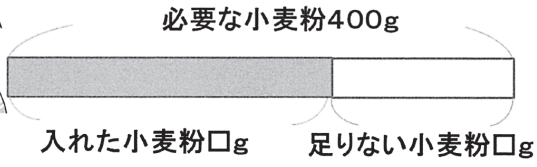
部分を求めるには，全体からもう１つの部分をひけばいいね。

（２）数量の関係を順序立てて図や式に表す活動

レベル２　ケーキを作るために小麦粉が４００ｇ必要です。入れ物だけはかると，目もりは図アのようになりました。次に小麦粉を入れると，目もりは図イのようになりました。小麦粉は，あと何ｇいりますか。

何がわかれば，答えが求められるかな。

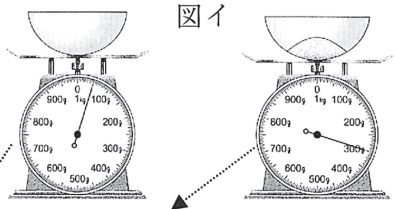
入れた小麦粉の重さがわかると，あとどれだけ小麦粉が必要か求められるよ。

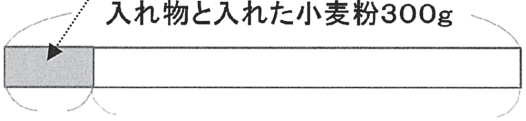


わかった！
入れた小麦粉の重さは　３００ｇだから
４００－３００＝１００　１００ｇだ。

え～っ？ちがうと思うよ。
３００ｇには入れ物の重さも入っているから，入れ物の重さをひかないといけないよ。

図ア　図イ





入れ物の重さは５０ｇだよね。
だから入れた小麦粉の重さは
３００－５０＝２５０　　２５０ｇだね。

必要な小麦粉の重さ－入れた小麦粉の重さ＝足りない小麦粉の重さ
だから　４００－２５０＝１５０　だよ！　答え　１５０ｇ

「問題の場面」→「テープ図」→「式」と考えていけばいいですね。
問題をよく読んで，「求める数は何か」を考えること，
問題文や図から，大事な数を抜き出すことを大切にしましょう。

小学校　第６学年
「社会」「理科」

小学校第６学年　社会

平均正答率
65.4%

（１）全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は 65.4%で，昨年度に比べ 4.2 ポイント下がっている。領域・分野別では，「産業と国土」の正答率は同程度であったが，「地域学習」の正答率が 7.6 ポイント下がった。「地域学習」の設問において「社会的な思考・判断・表現」を問う問題が増加し，しかもやや難解であったことがその一因である。また，依然として，複数の資料や，資料と既習の知識を関連付けて考える力や，考察したことを表現する力に課題が見られる。

（２）領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習（60.4%)】

○：地図を用いて，日本や石川県の様子について必要な情報を読み取ること
〔１(1)②，１(3)ｂｃ，５(1)〕

設問１のうち，(1)②や(3)c など，提示された白地図から石川県と隣接した県や石川県の概要についての情報を読み取る問題では，正答率は 90%を超えており良好である。地図帳を使って必要な情報を読み取り活用する技能については，徐々に身に付いてきているといえる。

設問番号		問題の内容	正答率
1	(1)②	隣接した都道府県(福井県)	91.5%
	(3)b	石川県の概要(交通機関)	87.6%
	(3)c	石川県の概要(伝統工芸)	93.3%
5	(1)①	日本の都道府県名	81.8%
	(1)②	日本の地形	77.6%
	(1)③	日本の地形	72.5%

引き続き，日本や身近な地域についての必要な情報を検索する方法や，資料の見方や読み方など基礎的・基本的な技能を定着させるため，目的に応じて白地図や地図帳を活用する学習を充実させることが大切である。

▼：複数の資料や，資料と既習の知識を関連付けて，考察したことを表現すること
〔１(5)，６(3)〕

設問１(5)，設問６(3)の正答率は，それぞれ 28.7%，32.4%と不十分である。

設問番号		問題の内容	正答率	無解答率
1	(5)	日本(石川県)の気候	28.7%	16.3%
6	(3)	人々の健康な生活を守る工夫や努力	32.4%	20.4%

設問１(5)は 21 年度の類似問題ではあるが，出題形式が複数の資料を関連付けて説明させるものに変わったために，正答率も下がった。誤答には，どちらか一方の資料から分かることのみで解答したり，気温のみに着目したりしたものが多かった。

設問６(3)は，雨水タンクが設置されているわけを，地域の水道事業などと関連付けて考察し適切な言葉で表現させる問題である。誤答には，雨水タンクを日常的に飲み水として使用するというものが多かった。また，無解答率も 20%を超えていた。要因としては，既習事項と結び付けて，自分の考えを具体的な言葉で書いたり説明したりする力が十分に身に付いていないためと思われる。

指導に当たっては，次のような学習を充実することが必要である。

- 既習事項や資料と調べたことや考えたことを関連付けながら表現させる指導を系統的・継続的に行っていくこと
- 高学年においても，適宜地図を活用する学習を設定すること

(H23「分析・考察」事例２参照)

【産業と国土（69.0%）】

○：日本の産業（農業・情報化）の特色について理解すること　〔４(1)(2)，５(3)〕

設問４(1)(2)及び５(3)は，日本の産業に関して，情報メディアや情報化社会の特色・稲作の作業の様子について理解を問う問題である。いずれも正答率は80%を超えており，それぞれの産業の特色の理解は良好である。

設問番号		問題の内容	正答率
4	(1)	メディアの特色	98.5%
	(2)	情報化の特色	80.7%
5	(3)	稲作の作業の様子	84.5%

▼：資料から必要な情報を読み取り，判断すること　〔５(4)①〕

設問５(4)①は，日本の農業の現状について指定された資料のグラフから情報を正しく読み取る問題である。正答率は，ＡＢどちらも低く，グラフから必要な情報を正確に読み取ることは不十分である。Ａはグラフ全体の数と間違って読み取っているものが多く見られ，Ｂは比べなければならない項目を誤って判断しているものが見られた。また，設問の題意を正確に読み取る力にも課題がある。

設問番号		問題の内容	正答率
５(4)①	A	日本の農業の現状(グラフの読み取り①)	31.4%
	B	日本の農業の現状(グラフの読み取り②)	53.9%

指導に当たっては，次のような学習を充実することが大切である。

・資料から必要な情報を選択して読み取る課題を取り入れ，資料活用の技能を確実に身に付けること

・地図帳や地球儀，統計グラフなどの基礎的資料を，効果的に活用すること

（H24「分析・考察」事例２参照）

▼：日本の産業の特徴や課題について，資料や既習の知識を基に考察したことを表現すること　〔４(3)，５(4)②〕

設問４(3)，５(4)②は，情報の有効活用及び日本の農業の現状について，資料を基に思考・表現させる問題であり，正答率は低い。特に５(4)②は，２つの資料を関連付けて答えさせる問題であり，複数の資料のうちの１つのみを用いて解答しているものや，自分の言葉で適切に表現できていないものが多く見られ，また，無解答率も高い。

設問番号		問題の内容	正答率	無解答率
4	(3)	情報ネットワークの活用	54.5%	9.3%
5	(4)②	日本の農業の現状	23.8%	19.1%

指導に当たっては，次のような学習を充実することが大切である。

・資料に表されている事象の全体的な傾向を捉え，適切な言葉で表現すること

・資料から得た情報を既習の知識と関連させたり，複数の視点から解釈したりすること

指導改善のポイント

□複数の資料の関連付けや，資料と既習の知識との関連付けに留意しながら，考察したことを適切な言葉で表現する力を育成すること（→事例１）

□資料から必要な情報を読み取るとともに，表されている事柄の全体的な傾向を捉え，それを多面的・多角的に考察する力を育成すること（→事例２）

※　下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

（３）改善に向けた指導事例

学びの指針 3

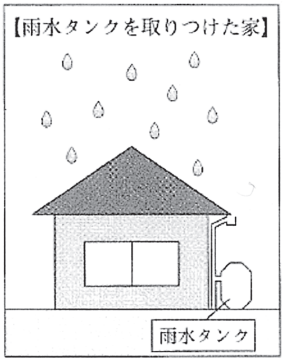
ア　事例１

複数の資料の関連付けや，資料と既習の知識との関連付けに留意しながら，考察したことを適切な言葉で表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6(3)	地域学習	地域の人々の健康な生活や良好な生活環境について，資料を活用して調べ，水道事業がその維持や向上に役立っていることを考え表現することができる。	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現

6(3)　ゆいさんの市では，右の図のように，雨水タンクを家に取りつける取り組みを進めています。それによって，わたしたちの生活にいくつかのよい効果があると考えられます。１つは，都市の地表面がコンクリートでおおわれたことによっておこりやすくなったこう水を防ぐことです。このほかにどのような効果があると考えられるか，□に書きましょう。



正答例	誤答例	
6(3) ・節水できること。 ・災害時の水源に利用できること。 ・水道代が節約できること。	6(3) 【日常的に飲み水として使っているとしたもの】 ・いつでも飲める。　・飲み水になる。など 【水不足を防ぐことを目的としたもの】 ・水不足にならない。　・水不足がなくなる。など	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
32.4%（19.9%）	47.2%	20.4%

② 指導改善に向けて

誤答例の多くは，雨水タンクと市の水道事業の取組とを単純に結び付け，日常的に飲み水として使用すると解答したものであった。また，無解答率も高くなっている。これは，読み取った情報とどんな既習事項とを関連付けなければならないか判断し，考えたことを適切な言葉で説明する力が不十分であることが考えられる。

以上のことから，日頃の学習指導においては，単元や本時の学習課題を工夫し，資料から必要な情報を読み取る活動だけでなく，読み取った情報と既習の知識とを関連付けて考えたことについて，自分の言葉を使って適切に説明したり，意見を交流したりして確実に考えを深めることに留意する必要がある。

③改善事例　　第４学年「ごみの処理と利用」

1　指導のねらい

複数の資料や既習の知識から地域のごみ処理についての課題を考え，自分の言葉で表現する。そして「どうすればごみを減らすことができるか」を考え，家族や全校に発信する。

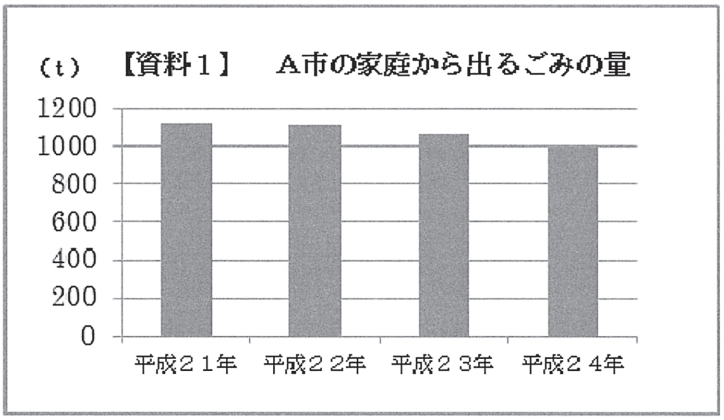
単元計画（14 時間扱い）

・ごみはどのように処理されているの？（12 時間）

・ごみを減らすためにわたしたちができること（２時間）

2　具体例　　【課題】　≪ごみを減らすためにわたしたちができることを考えよう≫

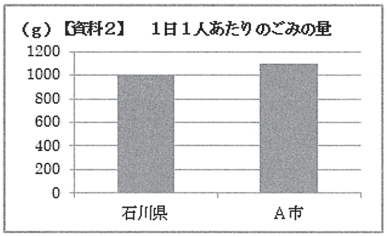
（1）資料からＡ市のごみ処理の課題をつかみ，解決方法を考える。

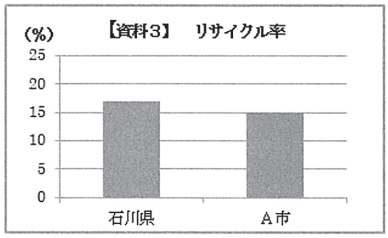


ポイント１

グラフの基本（表題，縦軸，横軸，単位，出典など）を確認し，全体の様子を読み取らせてから，複数の資料を関連付けて考えさせるようにする。

Ａ市が計画的にごみ処理に取り組んでいるから，家庭から出るごみの量が減っているよ。





石川県と比べると，Ａ市は１人あたりのごみの量が多いし，リサイクルしている率も低いよ。

ポイント２

３つのグラフから考えたことを自分の言葉で表現させ，意見を交流する中から課題を見付け出す。

資料１からＡ市のごみの量は市や市民の努力で確実に減ってきているとわかる。でも，資料２，３を見ると，石川県の平均より１人あたりのごみの量は多いし，リサイクルしている率も低い。わたしたちも，もっとごみを減らす工夫や努力が必要だと思う。

（2）ごみを減らす方法を家族や全校に発信する。

○自分の家でできることは家族へメッセージを書き，全校へお願いすることはポスターという形で発信する。

ポイント３

既習の知識をもとにごみを減らす工夫や努力を考え，自分の言葉で発信させる。

お父さん・お母さんへ

ごみは大事な資源にもなるということがわかったよ。これからは，ごみをしっかり分別して出すようにするね。牛乳パックもリサイクルに出せるから捨てないでね。それから，今度のごみ出しはぼくが行くよ。

イ　事例２
資料から必要な情報を読み取るとともに，表されている事柄の全体的な傾向を捉え，それを多面的・多角的に考察する力を育成すること

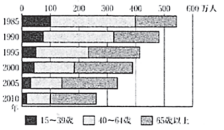
①　問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(4)	産業と国土	農業に従事している人々の工夫や努力を理解するとともに，農業の抱える問題について考えたことを表現することができる。	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現 観察・資料活用の技能

5　(4)　さくらさんは，農業で働く人々について，下のようにノートにまとめました。ノートを見て，①，②の問いに答えましょう。

［さくらさんのノート］

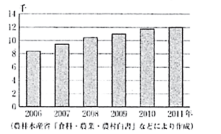
［資料１］
農業で働く人の年れい別の人数の変化



（農林水産省「年齢別農業就業人口」などにより作成）

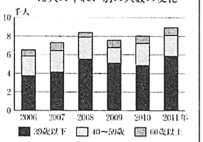
○資料１からわかったこと
・農業で働く64歳以下の人の数は，1985年から2010年の間に，約（　A　）分の１に減りました。
・（　B　）年には，農業で働く人全体の中で，65歳以上の人の割合が半分をこえました。

［資料２］
農業をする会社や団体の数の変化



（農林水産省「農業・農村白書」などにより作成）

［資料３］農業をする会社や団体に就職した人の年れい別の人数の変化



（農林水産省「新規就農者調査」より作成）

○資料２と資料３から考えたわたしのキャッチフレーズ
「農業の新しい形　農業に就職する若者たち」

①　ノートのA，Bにあてはまる数を［　　］に書きましょう。
A［　　］　B［　　］

②　さくらさんが，**「農業の新しい形　農業に就職する若者たち」**というキャッチフレーズをつけた理由として考えられることを，資料２と資料３を関連させて［　　］に書きましょう。

正答例	誤答例
5(4) ①　A：4　　B：2000 ②　農業をする会社や団体が増えていて，その会社や団体に就職する人の中で，39 歳以下の若い人たちが多いから。	5(4) ①　A：2　など　　B：2005　など ②「農業をする会社や団体が増えているから」など１つの資料しか使っていないもの。

正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
①A31.4%（ 1.1%） B53.9%（ 2.6%） ②　23.8%（12.4%）	①A64.7% B41.9% ②　57.1%	①A　3.9% B　4.2% ②　19.1%

②　指導改善に向けて

5(4)①A・Bについては，誤答の多くは設問の題意を正しく読み取っていないことに起因するグラフの読み間違いによるものであった。Aでは，64 歳以下の人数を尋ねているにもかかわらず，グラフ全体の数を読み取っているため，２分の１と答えているものが多く見られた。②では１つの資料のみを使って理由を答えているため，２つの資料が関連付けられていないというものが多く見られた。

以上のことから，設問において何が問われているのかを確認しながら，グラフ等の資料を正確に読み取り，表されている事象の全体的な傾向を捉え，それらに別の視点や複数の視点を与える等，多面的・多角的に思考させる機会を意図的に設定していく必要がある。

③ 改善事例　　第５学年「情報化した社会とわたしたちの生活」

1　指導のねらい

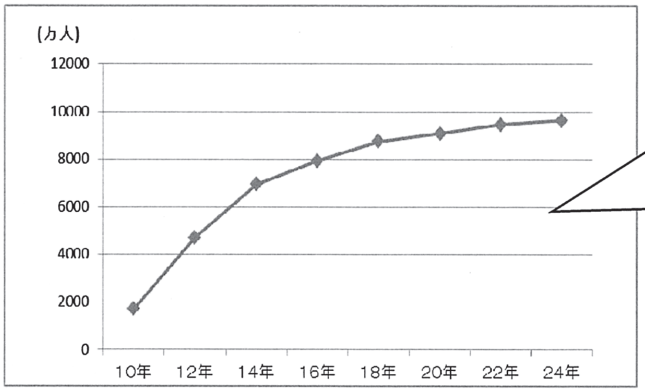
情報化の進展には様々な利点とともに問題点もあることを捉え，生活の中で情報を有効に活用する大切さについて考え，根拠を明確にして適切に表現する。

単元計画（８時間扱い）
・生活の中の情報（１時間）
・情報ネットワークの活用（５時間）
・情報社会で生きるには（２時間）

2　具体例　　【課題】　≪わたしたちはインターネットからの情報にどのようにかかわっていけばいいのだろうか≫

○情報のよりよい活用について経験を基に考え，複数の資料を根拠に，自分の考えをまとめる。

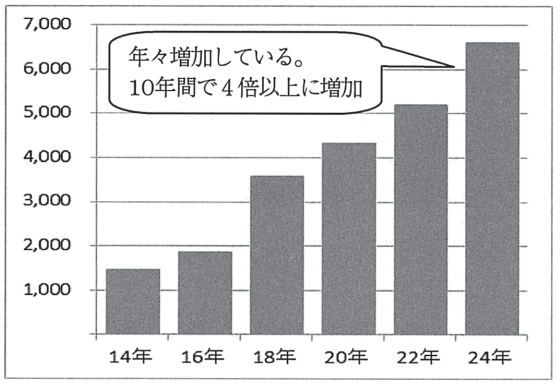
【資料１】インターネット利用者数のうつりかわり
（出典：総務省「平成 24 年通信利用動向調査」）



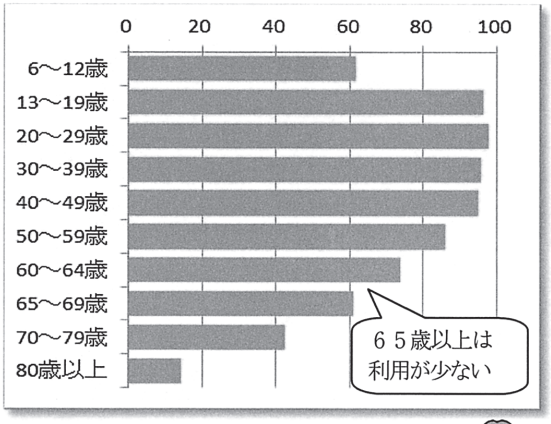
ポイント１
考えをもった根拠（事実・データ・既習）を発問・問い返しにより明確にさせる。

・インターネットの利用者の数は１億人近くもいる。学校や図書館など，いつでも使うことができるようになっているよ。ほとんどの人が利用していて，生活になくてはならないものになっている。
・インターネットの利用者の数は年々増えているよ。でも，まだ利用していない人もいるんだ。

【資料２】インターネットを利用した犯罪数のうつりかわり
（出典：警察庁「警察白書」平成 24 年度版）



【資料３】世代別インターネット利用率
（出典：総務省「平成 23 年通信利用動向調査」）



● 新しい視点で考えさせる

（例）「便利になったけど，気をつけなければならないことはあるのかな？」

・資料１と２から，利用者数の増加やふきゅう率の高まりと同じように，インターネットを利用した犯罪が増えている。

● いろいろな立場で考えさせる

（例）「お年寄りの立場で考えてみると？」

・資料３から，若い人はインターネット利用率が100%に近い。でも，65歳以上の利用は，ずいぶん低い。機械を操作するのが難しいのかな。
・インターネットを利用して本の予約ができたり，緊急地震速報が届いたりすることを勉強したけど，お年寄りには不便かも。

ポイント２　　新しい視点やいろいろな立場から，多面的・多角的に捉えさせる。

【まとめ】　インターネットは便利だけど，危険な面もあることを理解して利用することが大切だ。また，**情報を発信するときには，インターネットを使っていない人や不慣れな人のことを考えることも大切だ。**

小学校第６学年　理科

平均正答率
70.1%

（１）全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は 70.1%であり，基準に到達している。過去の類似問題の正答率と比較すると，設問４(2)の回路の作成や設問６(2)の水に溶けた食塩の様子，(3)の食塩水から食塩を取り出す方法については，指導の改善傾向が見られる。しかし，観察・実験の結果を分析し解釈して自分の言葉で記述すること，体験活動で得た知識を基に科学的に考察することについては課題が見られる。

（２）領域・分野ごとの分析・考察

【物質・エネルギー（70.3%）】

▽:閉じ込めた水を圧したときの水の体積変化について説明すること〔2(3)〕

設問２ (3)の閉じ込めた水を圧したときの体積の変化については十分とはいえない。

設問番号		問題の内容	正答率
2	(3)	閉じ込めた水を圧したときの体積	68.3%

指導に当たっては，水を圧したときの手ごたえを，空気を圧したときの手ごたえと対比しながら，一人一人に十分体感させる必要がある。(H20「分析・考察」事例１参照)

◎:検流計とスイッチを入れた回路のつなぎ方を図示すること〔4(2)①〕

設問４(2)①は，23 年度類似問題にスイッチを追加したものである。回路につなぐ機器が１つ増えたため，23 年度に比べて設問はやや難化している。それでも正答率は23 年度の 78.5%を 13.4 ポイント上回っており，検流計等を入れた回路のつなぎ方を図示することについては良好である。

設問番号		問題の内容	正答率
4	(2)①	回路の作成	91.9%

今後も，回路図から配線したり，配線したものを回路図に表したりする活動を十分に行い，更に配線したものを電流の流れに沿って指でたどる活動等を加え，回路に関する理解を深めていくことが大切である。

○:水に溶けた食塩の様子を粒子モデルで捉えること〔6(2)〕

設問６(2)の水に溶けた食塩のようすは，24 年度全国学力・学習状況調査の同問の正答率 62.4%を大きく上回っている。

設問番号		問題の内容	正答率
6	(2)	水に溶けた食塩の様子	80.5%

考察場面で物質が水に溶けると液全体に広がる様子を図や絵などを用いて表現させる指導が定着し，より確かな理解につながっているものと考えられる。

▼:磁石かどうかを検証する実験操作の意味を理解して，その結果を説明すること〔7(2)〕

設問７(1)B，C において，16 年度の正答率 B42.3%，C39.6%を上回っているものの，観察・実験の結果を分析し考察することに課題が見られる。反発すれば，必ず磁石どうしであることを理解させる必要がある。(2)の磁石かどうかを確認する方法の説明問題の正答率は最も低く，磁石の性質として「鉄を引きつける」「磁石の異極は引き合い，同極は退け合う」以外に「自由に動くようにすると南北を向く」ことが十分理解されていない。

設問番号		問題の内容	正答率
7	(2)	磁石かどうか確認する方法	35.0%

指導に当たっては，磁石の「南北を向く」性質を実際に確かめる活動を取り入れ，実験方法を考えたり，説明したりする学習活動を行う必要がある。またこの単元で，方位磁針が磁石であることを理解させることで，次に学習する４年「月や星の動き」での方位磁針の操作へと円滑につなげたい。

【生命・地球（69.3%）】

◎:チョウの変態の仕方について理解すること〔1(2)〕

設問１(2)のチョウの変態の仕方を理解することは,良好である。授業でのさなぎの観察経験が，実感を伴った理解につながっているものと考えられる。

設問番号		問題の内容	正答率
1	(2)	チョウの変態の仕方	95.1%

○:流水のはたらきと土地の変化の関係について考察すること〔3(1)(2)(3)〕

設問３(1)(2)(3)の流水のはたらきと土地の変化の関係について考察することは，概ね良好である。15年度教育課程実施状況調査の正答率を 12.9～28.0 ポイント上回っており，流水実験における条件制御についての指導が定着してきているものと考えられる。

設問番号		問題の内容	正答率
3	(1)	流れる水の量と水のはたらきの関係	85.5%
	(2)	流れる水の速さと水のはたらきの関係	86.2%
	(3)	流れる水のはたらきの大きさ	80.2%

◇:受粉と結実の関係を調べる実験操作の意味を理解すること〔5(1)〕

設問５(1)の受粉と結実の関係を調べる実験操作の意味を理解することは，基準に到達している。

設問番号		問題の内容	正答率
5	(1)	受粉に関する実験操作の意味	71.3%

今後も，実験の目的を意識させ，条件制御の意味を正しく捉えさせるとともに受粉と結実の関係を，観察を通して理解させることが大切である。

▼:かげのできる位置の変化と太陽の動きの関係について考察すること〔8(1)(2)〕

設問８(1)の影の観察記録と太陽の動きを関係付けて方位を判断することと,(2)の影の変化のデータを分析して考察することで未観察の記録を表すことについては不十分である。(1)については 23 年度類似問題の正答率 40.9%を上回っているものの，太陽と影の位置関係の理解にまだまだ課題が見られる。

設問番号		問題の内容	正答率
8	(1)	太陽の方角	52.6%
	(2)	太陽とかげの位置の関係	55.8%

指導に当たっては，以下の点に留意する必要がある。

① 一人一人に方位磁針を操作させながら操作技能と方位の感覚を身に付けさせること
② 影の反対側に常に太陽があることを，体験を通して理解させること
③ 方位については生活との関連を図って日常において意識できるよう指導すること

▼:月と太陽の動きの規則性について理解すること〔8(3)(4)〕

設問８(3)の月の動きの規則性から特定の時刻の月の見え方を推定することや,(4)の太陽と月の観察結果を基に２つの動きの規則性について理解することは不十分である。３年で太陽の動き，４年で月の動きを捉える観察をそれぞれ行っているものの，空間把握の難しさもあって実感を伴った理解に至っていないと考えられる。そのため，体験活動の充実を図る必要がある。

設問番号		問題の内容	正答率
8	(3)	月の見え方	50.1%
	(4)	太陽と月の位置の関係	47.9%

指導に当たっては，家庭で夜間の月の観察をする前に，学校において共通体験として昼間の月の観察を行うことや，３年の太陽の動きと比較しながら４年の月の動きの学習を展開して３年時の理解の不十分な点を補充していく必要がある。また，直接観察するだけでなく，プラネタリウムやデジタル教材等を活用することも効果的である。

指導改善のポイント

□問題解決のための実験方法を計画したり,説明したりする学習活動を充実させること（→ 事例１）
□観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動を充実させること
□観察・実験等の具体的な体験を基に，科学的な見方や考え方を深める指導を工夫すること
（→ 事例２）

※ 下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

（3）改善に向けた指導事例

学びの指針 2

ア　事例1

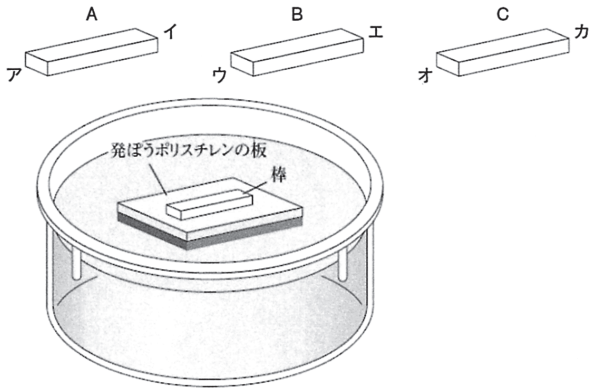
問題解決のための実験方法を計画したり，説明したりする学習活動を充実させること

①　問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7(2)	A 物質・エネルギー（エネルギー）	磁石であることを確認する実験において磁石である場合の結果を考え，説明できる。	科学的な思考・表現

7　下の図のように，磁石か磁石でないかわからない棒（ぼう）A，B，Cがあります。正子さんは，磁石の性質を使って，それぞれの棒が磁石かどうかを確かめる実験をしました。あとの問いに答えましょう。

(2)　正子さんは，棒A，B，Cが磁石かどうかを確かめるために，(1)とは別の方法を考えました。右の図のように，それぞれの棒を発ぽうポリスチレンの板にのせて，水が入った水そうに棒をうかべる実験です。この実験でどのような結果がでれば，磁石だといえますか，書きましょう。



②　指導改善に向けて

正答例	誤答例	
棒が南北に向いて止まる。	水に浮く。発泡ポリスチレンとくっつく。磁石を近づけると動く。	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
35.0%（15.9%）	58.1%	6.8%

この設問は，全設問中正答率が最も低い。記述式の設問であることもその一因と考えられるが，誤答例に「水に浮く」「発泡ポリスチレンとくっつく」が多いことから推察すると，設問の意図を理解していない児童が相当数存在することが考えられる。また，「磁石を近づけると動く」と解答した児童は，磁石の力は離れていてもはたらくことを証明する別の実験の結果を想起したものと考えられる。

この設問の実験では，磁石であるかないかを判断するために，磁石の「自由に動くようにすると南北を向く」性質を基にしている。誤答の背景には，磁石の性質として「鉄を引きつける」「磁石の異極は引き合い，同極は退け合う」の他に「南北を向く」性質があることが十分理解されていないことが考えられる。

指導に当たっては，磁石の性質の学びを方位磁針の場合に活かし，磁石の「南北を向く」性質を実感できる学習活動を行う必要がある。

③　改善事例　　第３学年「じしゃくにつけよう」

1　指導のねらい

磁石の性質を基に，方位磁針が磁石であることを確かめる実験を計画し，磁石であることが説明できるようにする。

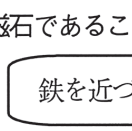
2　具体例

方位磁針の針は磁石でできています。
方位磁針の針が磁石でできていることを確かめるにはどうしたらいいですか？

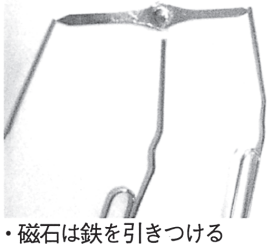
課題　　＜方いじしんのはりはじしゃくかな＞

実験１　方位磁針が磁石であることを確認する方法を考え，磁石であることを確かめる

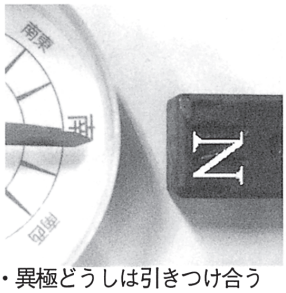
・方位磁針の針にクリップをのばしたものを近づける。
・磁石を近づけたり，方位磁針どうしを近づけたりする。



鉄を近づけてみよう。



・磁石は鉄を引きつける
・磁石は両端が強い



・異極どうしは引きつけ合う

磁石を近づけるとくっついたり離れたりするかな？

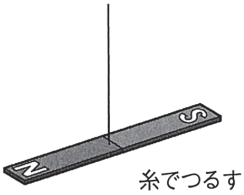
＊前時の磁石の性質を調べる実験を想起させ，磁石であることを確認する方法を考えさせる。

＊実験に際して使用する磁石はできるだけ弱いものを使用する。強いものを使用した場合，N極・S極関係なく方位磁針を引きつける場合がある。また，方位磁針を逆帯磁させてしまう場合がある。

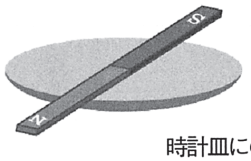
方位磁針は磁石の性質が全部当てはまったよ。もしかすると，ぼう磁石も自由に動くようにすると方位磁針のように，南北を向くのかな？

実験２　棒磁石を自由に動くようにすると南北を向くかどうかを調べる

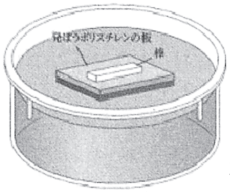
①　磁石が自由に動けるようにする方法を考える。
②　お互いが引き合わないように磁石どうしを離して様子を観察する。



糸でつるす



時計皿にのせる



水に浮かせる

＊時計皿にのせる場合は，軽くて磁力の強いアルニコ磁石を使用するとよい。

どの実験のぼう磁石も方位磁針の針と同じ方向を向いたね。
磁石はみんな「南北を向く」性質を持っているんだ。

そうですね。方位磁針は，その性質を利用して方位を調べる道具です。

＊磁石が南北を向くことは方位磁針の操作にもつながる重要な性質の一つである。磁石が南北を向く理由はこの単元で指導しなければならない内容ではないが，磁石の性質から地球が大きな磁石になっていることを想起させることも大切である。

学びの指針 3

イ　事例２

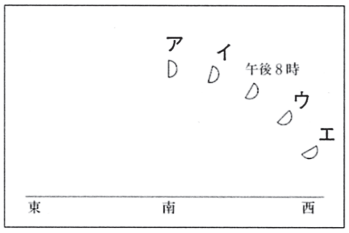
観察・実験等の具体的な体験を基に，科学的な見方や考え方を深める指導を工夫すること

①　問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
8(3)	B 生命・地球（地球）	観察記録と月の動きを関連付けて考え，観察時刻に対応した位置を選択できる。	科学的な思考・表現

8　正子さんは，太陽の動きと月の動きを調べました。あとの問いに答えましょう。

(3)　右の図のように，正子さんは午後６時から１時間ごとに月の位置を記録しました。午後６時の月の位置はどれですか。図のア～エから１つ選び，その記号を［　　］にかきましょう。



②　指導改善に向けて

正答例	誤答例	
ア	イ，ウ，エ	
正答率	誤答率	無解答率
50.1%	49.6%	0.4%

この設問は，３年「日なたと日かげ」と関連して，月や星は見かけ上，東から西へ動くことを理解しているかを問う問題である。選択肢で答える設問だが，太陽の動きと関連させて答える8(4)とともに正答率は低い。図には月の位置が５つ示されており，真ん中が午後８時の月である。午後６時から１時間ごとに観察とあるため，配列両端のアかエの選択に絞り込まれるが，「月は夜に昇ってくる」との思い込みからエを解答した児童が多く，誤答率が高くなったのではないかと考えられる。

この単元では，月の観察を通して，月は太陽と同じ動きをしていること，日によって形が変わって見えることを理解させることを目的としている。月の観察は夜間に家庭で行われることが多いため，事前に学校において昼間に見える月でしっかりと観察方法を習得させてから実施させたい。

③　改善事例　　第４学年「月や星の動き」

１　指導のねらい

継続観察を通して，月は太陽と同じように東から昇り，南を通って西に沈むことや日によって形が違うことを理解させる。

２　具体例

導入

今日から理科は「月や星の動き」の学習です。
昨日月を見た人はいますか？
月はどこ（どの方位の空）にどんな形に見えたかな？

午後６時頃，西の空に見えました。低いところに見えました。

午後９時頃，月は見えなかったよ。

三日月が夕焼け空にきれいに見えました。

観察した時刻によって，月が見えたり見えなかったりしたようですね。もしかして太陽と同じように月も動いているのかな？

課題　＜太陽と同じように月も動くのだろうか＞

観察１　昼間に見える月で動きを観察する

＊学校で一斉に半月の観察をして，月が動いていることを明確にさせる。

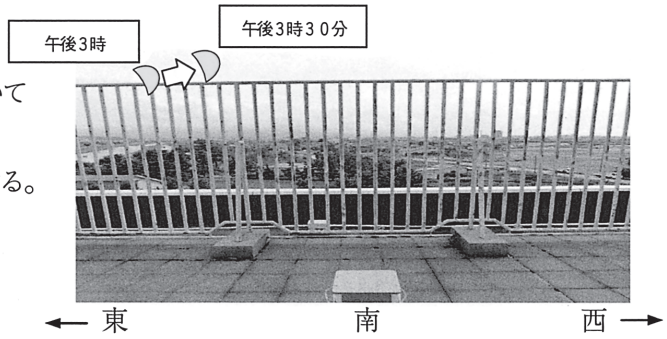
＊定点観察の基本として，以下の点を指導する。

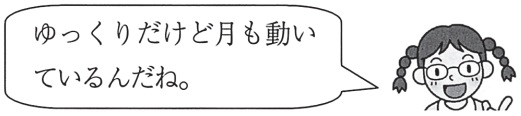
・同じ場所から観察する

・観察の目印となるものを決める

・見える方位，時刻を記入する

＊屋上で観察でできれば，フェンスを目印にしたり，チョークで足型を書いたり，観察する位置が一定になるように工夫する。

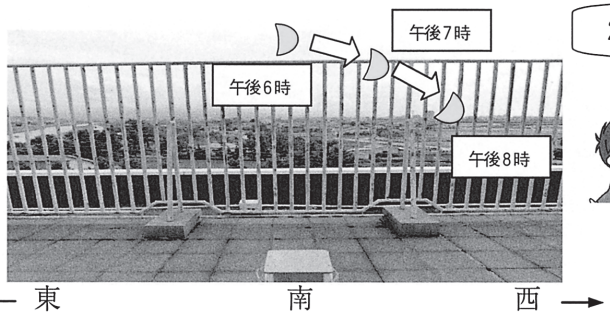


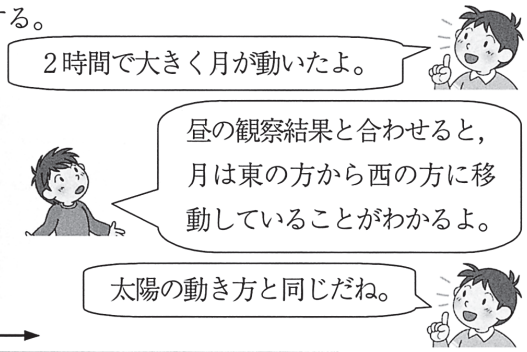


＊観察時には，３年「太陽の動き」「磁石の性質」で使った方位磁針を一人一人に与え，方位を測定させる。

観察２　夜に見える月の動きを観察する

＊学校で観察会を行う場合は、送迎など保護者に協力を求めるとよい。また，家庭で観察する場合は，安全面を配慮し，保護者への協力を通信などで依頼する。

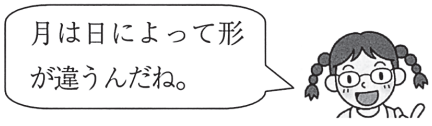


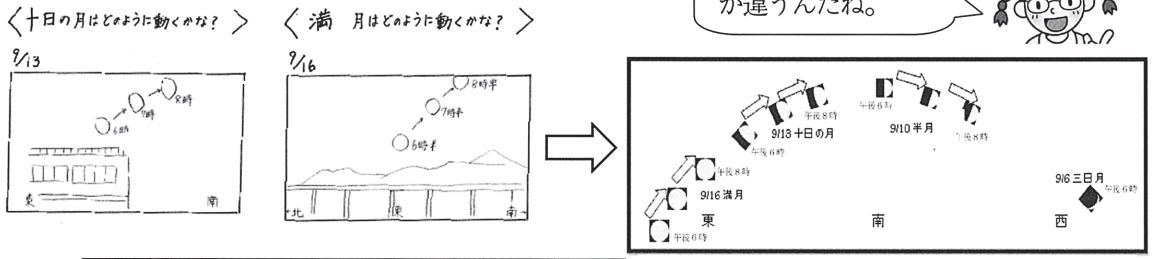


まとめ　**月は，太陽と同じように東の方からのぼり，南の空を通って，西の方に沈む。**

観察３　形の違う月の動きを観察する

＊この後は，十日の月，満月と異なる形の月で観察させる。





まとめ　**形が違う月も太陽と同じように東の方からのぼり，南の空を通って，西の方に沈む。**

＊この単元の学習を三日月の観察から始めると，上図のように効率よく観察することができる。

中学校　第３学年
「社会」「理科」「英語」

中学校第３学年　社会

平均正答率
48.3%

（１）全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は 48.3%で，昨年度に比べ 8.6 ポイント下がっている。完全解答を求める問いや，「複数の資料の関連付け」を記述で答える問いが増えたこと，また，設問３(5)「守護の変化」の問いがやや難解であったことが，その一因である。地理的分野では，球面上の位置関係で世界の地域構成を捉えることや，資料や既習の知識を基に社会的事象について適切に表現することに課題が見られる。歴史的分野では，基礎的・基本的な知識である歴史的事象や人物について確実な習得を図ることや，時代を大観しその特色を捉えることにも課題が見られる。

（２）領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野（51.8%）】

◇:世界の地理的事象について理解すること〔1(1)①，1(2)②〕

設問１(1)①は，正距方位図法の地図を読み取り，示された条件に合う都市を選ぶ問題であり，21 年度の類似問題と同様に正答率は基準に到達している。また，設問１(2)②の世界の地形を問う問題についても正答率が基準に到達している。

設問番号		問題の内容	正答率
1	(1)①	世界地図の活用（距離・方位）	76.3%
	(2)②	アフリカの地形（ナイル川）	71.1%

▼：資料や既習の知識を基に，社会的事象について的確に表現すること〔1(2)③⑤，４(6)〕

設問１(2)⑤について「エチオピアを含め，アフリカ全体が植民地だったという表現」とした誤答が多かったことから，主題図から得られる情報を用いることは不十分である。

設問４(6)について，語句の意味は理解しているが，既習の知識と結び付け，事象を多面的に捉えることも，不十分である。

設問番号		問題の内容	正答率
1	(2)③	国境のきまり方	28.8%
	(2)⑤	資料の読解（公用語の歴史）	51.5%
4	(6)	地理的事象の解釈（地産地消）	54.6%

指導に当たっては，授業や単元の終末において，資料や既習の知識を基に，社会的事象の意義や社会的事象間の関連について的確に表現させる指導を継続的に取り組んでいく必要がある。

▼:複数の資料を関連付けて考察すること〔1(2)⑥，4(5)〕

設問１(2)⑥は無解答率が 20.5%と高い。誤答では，資料４のコーヒー豆の価格変動の大きさが述べられていないものが多く，また，「収入」という語句を適切に用いていない誤答も次いで多い。同様なことは設問 4(5)でも見られ，複数の資料を関連させて考察することは不十分である。

設問番号		問題の内容	正答率	無解答率
1	(2)⑥	複数の資料の関連付け（コーヒーの価格変動の影響）	25.7%	20.5%
4	(5)	複数の資料の関連付け（長野県のレタス生産の特色）	54.7%	14.0%

指導に当たっては，次のような学習を積み重ねる必要がある。

- 一つ一つの資料から情報を丁寧に読み取る学習（表題，グラフの項目や増減などに注目させる）
- 複数の資料を比較し，関連を考える学習
- 「読み取った事実」と「事実から考えたこと」を分けて自分の意見を表現する学習

（H22「分析・考察」事例１　参照）

【歴史的分野（44.5%）】

▼：基礎・基本となる歴史的事象や人物について理解すること〔２(3)，３(1)(3)，５(1)(3)〕

設問２(3)，３(1)(3)，５(1)(3)の正答率は60%を下回っており，不十分である。また，無解答率も設問３(3)の選択肢問題を除き，いずれも20%以上と高い。

設問番号		問題の内容	正答率	無解答率
2	(3)	歴史的事象の語句（大宝律令）	29.0%	27.4%
3	(1)	歴史的事象の語句（執権）	38.6%	23.7%
	(3)	歴史上の人物（後醍醐天皇）	53.4%	1.0%
5	(1)	歴史上の事象（太閤検地）	47.8%	21.1%
	(3)	歴史上の人物（松平定信）	33.2%	24.5%

設問３(3)では，建武の新政の中心人物を「桓武天皇」や「足利義満」など，前の時代や後世の人物を選択している。また，設問２(3)，３(1)についても同様である。更に，設問５(1)の誤答では，「太閤」を「太閣」とした漢字の間違いが多く見られた。これらのことから，その時代を象徴するような歴史的事象と人物について理解することや，歴史的事象を正しく表記することに課題が見られる。

指導に当たっては，次のような学習を充実させることが必要である。

- 単元で理解・定着させたい歴史的事象や人物をリストアップして，生徒に提示すること
- 教科書を活用しての音読や語句確認を継続的に行うこと
- 授業の導入や終末に，学習した歴史的事象及び人物について，正確に書かせたり，説明させたりすること

▼：時代の特色を捉えること〔２(1)②(2)(4)，３(5)，５(4)〕

設問２(1)②(2)(4)，３(5)，５(4)の正答率は50%を下回っており，不十分である。

設問番号		問題の内容	正答率	無解答率
2	(1)②	資料の読解（弥生時代の社会）	45.5%	13.9%
	(2)	古墳時代の様子	32.8%	1.0%
	(4)	時代の流れ（並び替え）	17.4%	1.1%
3	(5)	資料の読解・表現（守護の変化）	9.2%	33.9%
5	(4)	歴史的背景（開国に影響を与えた世界の出来事）	30.1%	3.9%

設問２(2)では，時代の流れの認識が不十分であり，時代の特色を示す主な考古資料の知識の定着も不十分である。また，設問２(4)の誤答では，政治の特色を踏まえた歴史の流れが捉えられていないものが見られた。

指導に当たっては，次のような学習を充実させることが必要である。

①単元の導入時に，その時代のイメージを述べさせたり，前の時代との違いを予想させたりすること

②単元のまとめに，その時代の特色を，具体的な歴史的事象を示しながら自分の言葉で表現させること
（学習した内容を振り返り，その時代を表す歴史的事象を，前の時代との共通点や相違点に着目しながら，政治，産業，社会，文化面から取り上げて，「この時代を代表するものは…」，「つまりこの時代は…」等の話型を示して説明させる）

指導改善のポイント

□複数の資料から読み取ったことを関連付けて，表現する力を育成すること　（→事例１）
□基礎的・基本的な歴史的事象を歴史の大きな流れの中で理解させ，その定着を図ること　（→事例２）

※　下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

（３）改善に向けた指導事例

学びの指針 2

ア　事例１
複数の資料から読み取ったことを関連付けて，表現する力を育成すること

①　問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
1(2)⑥	地理的分野	複数の資料から読み取ったことを関連付けて表現することができる。	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現

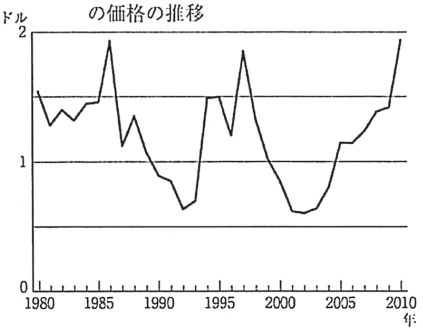
1(2)⑥　エチオピアの貿易がかかえる課題として考えられることを，資料３と資料４を関連づけて，「収入」という語句を使って書きなさい。

［資料３］エチオピアの輸出品上位４品目（2010年）

品目名	割　合
コーヒー豆	31.2%
野菜	17.5%
ごま	14.8%
切り花	5.7%

（ジェトロ統計資料より作成）

［資料４］コーヒー豆（１ポンド＝約453.6ｇあたり）の価格の推移



（国際コーヒー機関統計資料より作成）

正答例	誤答例	
エチオピアの輸出の約30％を占めているコーヒー豆の価格の変動が激しいことから，農産物の輸出にたよるエチオピアの収入は不安定であること。	【資料４が読み取れていないもの】 ・コーヒー豆の輸出が約30％を占めているから，エチオピアの収入は安定していない。 【「収入」の使い方が間違っているもの】 ・コーヒー豆の収入が減っている。 ・コーヒー豆の収入が増えている。	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
25.7％（13.0％）	53.8％	20.5％

②　指導改善に向けて

誤答では，資料３から読み取れる「エチオピアの輸出品に占めるコーヒー豆の割合の高さ」と資料４から読み取れる「コーヒー豆の価格の変動の激しさ」とを結び付けて考察することができていないものが多かった。

指導に当たっては，資料から読み取ったことを表現する学習活動を単元の中に計画的に位置付ける必要がある。その中で，複数の資料を比較し，関連付けて社会的事象を考察し，キーワードを用いて表現する活動を展開していくことが大切である。

また，アフリカ州の地域的特色である，モノカルチャー経済についての理解が不十分であることが正答率の低さと関係していると考えられる。世界の諸地域の学習に際しては，各州の特色ある地理的事象を基に主題を設定し，追究することを通して，州規模での地域的特色を理解させることが大切である。

③　改善事例　　第２学年「日本の諸地域　～中部地方～」

1　指導のねらい

既習事項の知識を基に，複数の資料を関連付けて，中部地方の産業の発展について考察し，適切に表現できるようにする。

単元計画（６時間扱い）
- ○自然環境の特色をとらえる（１時間）
- ○人口や産業を大観する（１時間）
- **○工業の特色をとらえる（２時間）**
- ○農業の特色をとらえる（１時間）
- ○世界との結びつきをとらえる（１時間）

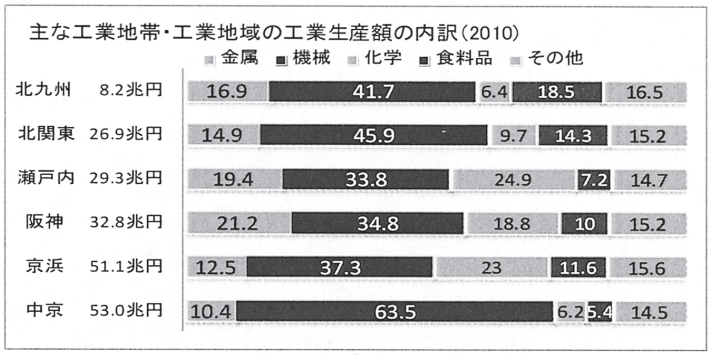
2　具体例（４／６）

課題　＜　*中京工業地帯にはどのような特徴があるのだろうか？*　＞

（１）中京工業地帯と他の工業地帯・地域を比較しよう。

生産額にも注目しよう。

A



「2012 年工業統計」より作成

Aのグラフから，中京工業地帯は，機械の占める割合が他と比較してとても高いことがわかります。また，工業生産額も一番高いです。

（２）その他の資料からもっと特徴を探ろう。

中京工業地帯の中心的な県はどこだろう。

B　工業生産額 上位5府県

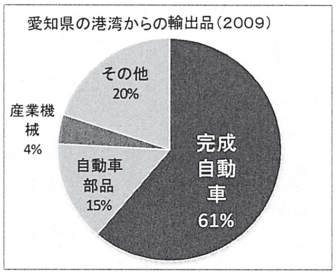
順	都道府県	（兆円）
1	愛知	38.4
2	神奈川	17.3
3	大阪	15.9
4	静岡	15.9
5	兵庫	14.2

C　輸送用機械生産額 上位5県

順	都道府県	（兆円）
1	愛知	19.4
2	静岡	4.4
3	神奈川	3.7
4	広島	2.5
5	三重	2.5

「日本国勢図会 2011/12」などにより作成

D



2009 年「港湾調査」より作成

Bから，愛知県が日本一の工業生産額であることがわかります。

Cから，愛知県が日本一輸送機械の生産がさかんであることわかります。

Dから，愛知県の港湾からの輸出は自動車関係がほとんどです。

（３）<u>それぞれの資料から読み取ったことを関連付ける</u>と，どのようなことがわかるでしょうか。グループで考えましょう。

輸送機械とは自動車のことだね。

AとBから，中京工業地帯の生産額の約７割を愛知県の生産額が占めているから，愛知県が中京工業地帯の中心であることがわかります。

BとCから，愛知県の工業生産の約半分は輸送用機械であることがわかります。

B・C・Dから，愛知県は自動車の生産がさかんで，たくさんの自動車や自動車部品を輸出していることがわかります。

（４）**まとめ**　<u>グループで考えたことをもとに，自分の考えをまとめよう。</u>

「自動車」をキーワードにして，中京工業地帯の特徴をまとめよう。

愛知県を中心とする中京工業地帯は工業生産額が日本一です。自動車工業がとても発達していて，自動車や自動車部品の輸出もさかんであることがわかります。

学びの指針 2

イ　事例 2

基礎的・基本的な歴史的事象を歴史の大きな流れの中で理解させ，その定着を図ること

①　問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (4)	歴史的分野	近代の特色を世界の動きと関連付けて理解している。	社会的な事象についての知識・理解

5　太郎さんは，歴史に登場する人物について，下のようなA～Dの4枚のカードにまとめました。これを見て，あとの問いに答えなさい。

A
①豊臣秀吉
・大阪城を築き，本拠地とした。
・北条氏を滅ぼし，全国を統一した。

B
徳川家光
・江戸幕府の3代将軍となる。
・②鎖国の体制を固める。

C
X
・田沼意次のあとに老中となった。
・武士の生活を救うため，町人からの借金を帳消しにした。

D
ペリー
・③開国を求めるアメリカの大統領の国書を持ってきた。
・幕府と日米和親条約を結んだ。

(4)　下線部③について，幕府はペリーの要求に応じ開国した。次のア～エのうち，幕府が開国にふみ切った理由として最も関係が深いと考えられるものを1つ選び，その記号を書きなさい。

ア　フランス革命　　イ　アヘン戦争　　ウ　アメリカ独立戦争（革命）　　エ　宗教改革

正答例	誤答例	
イ	ア　ウ　エ	
正答率	誤答率	無解答率
30.1%	66.0%	3.9%

②　指導改善に向けて

選択肢には，主に近代のヨーロッパやアメリカの特徴的な歴史的事象をあげたにもかかわらず，正答率が30.1%と低い。これは，歴史的事象を歴史の大きな流れの中で理解していないことや，世界の歴史的事象についての基礎的・基本的な知識の定着が不十分であることが原因と考えられる。

指導に当たっては，歴史的事象についての基礎的・基本的な知識を理解させるために，教科書を活用して歴史的事象の重要語句や人物名を確認したり，年表や既習資料を活用して歴史的事象を時代の流れに沿って認識したりする学習を繰り返すことが必要である。更に，定着度を高めるために，重要語句や人物名を正確に書いたり，他者に説明する学習も有効である。

単元の導入では，小学校での既習を生かして，その時代の特徴的な歴史的事象や人物についての知識を想起させること，単元のまとめの学習では，基礎的・基本的な歴史的事象を時代の流れに位置付けて理解を深めることが大切である。

③　改善事例　　第２学年「近代の日本と世界」

1　指導のねらい

○　流れの中で歴史的事象を関連付けて捉え知識の定着を図るために，年表にして振り返り時代の特色を捉え，自分の言葉で表現できるようにさせる。

2　具体例（２時間）

単元計画（９時間扱い）
○近代革命の時代（２時間）
○産業革命と欧米諸国（１時間）
○ヨーロッパのアジア侵略（１時間）
○開国と不平等条約（１時間）
○江戸幕府の滅亡（２時間）
○単元のまとめ（２時間）

課題 ＜ *欧米諸国のアジア進出と江戸幕府の開国との関係について，学習した内容を年表に整理して説明しよう！* ＞

教科書や折り込み年表，資料集などを活用し，課題に関係するできごとを選び出そう。

(1)　単元で学習した内容を日本と世界に分けて年表に整理しよう。

―日本のおもなできごと―	―世界のおもなできごと―
1853年　アメリカの使節ペリーが浦賀に来る	1688年　イギリスの名誉革命
1854年　日米和親条約を結ぶ	1689年　イギリス「権利章典」の制定
1858年　日米修好通商条約を結ぶ	1775年　アメリカの独立戦争
1859年　安政の大獄	1776年　アメリカ独立宣言
1860年　桜田門外の変	このころイギリスで
1862年　生麦事件・薩英戦争	産業革命がはじまる
1864年　四国艦隊が下関を砲撃する	1789年　フランス革命　人権宣言
1866年　薩長同盟を結ぶ	1840年　アヘン戦争
1867年　大政奉還	1842年　南京条約
王政復古の大号令	1851年　太平天国の乱
1868年　戊辰戦争	1857年　インド大反乱

世界の年表には，欧米諸国のアジア進出の背景とその結果がわかるものを書きました。

出来事に関連する人物も加えて説明しよう。

(2)　整理した年表を，ペアになって説明してみよう。

1853年アメリカの使節ペリーの来航により，翌年アメリカと日米和親条約を結び，開国することになりました。さらに1858年にアメリカとの間で貿易を認める条約，日米修好通商条約を結びました。当時の幕府の大老は井伊直弼で……

イギリスでは，名誉革命によって議会を尊重する王を立てて1689年「権利章典」を制定しました。また，1776年アメリカはイギリスの植民地から独立しました。フランスでは，1789年フランス革命が起こり人権宣言が……

欧米諸国のアジア進出について，次の３つの視点から説明を整理してみよう。（考えの再構成）

①フランス革命などの欧米諸国における民主政治の動き
②イギリスにおける産業革命の進展と資本主義社会の成立
③欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変化

(3)　欧米諸国のアジア進出と幕府の開国について年表を使って説明しよう。

日本と世界のできごとの知識を基に，その関係を説明することができたね。

まず日本のおもなできごとの年表を見てください。江戸幕府が開国とした直接の原因は，1853年のペリーの来航です。幕府の大老井伊直弼は翌年アメリカと日米和親条約を結び港を開き，1858年には日米修好通商条約を結び貿易をはじめることとなりました。では，なぜペリーの来航で開国したのでしょうか。それには欧米諸国のアジア進出が影響しています。……

最初に世界のおもなできごとの年表を見てください。1689年にイギリスで権利章典を制定，1776年にアメリカがイギリスから独立，1789年フランス革命が起こり，人権宣言が発表されました。これは，欧米諸国で，人民主権や自由と平等の考え方が広まり，民主政治への大きな動きとなりました。これらの考え方には，ロックやモンテスキュー，ルソーなどの啓蒙思想家の影響が大きかったのです。……

中学校第３学年　理科

平均正答率
50.2%

（１）全体的な傾向の分析・考察

平均正答率は 50.2%であり，一昨年度より 10.0 ポイント低下している。本年度大きく下がった要因としては，活用力を重視する問題が充実したこと，定量的な取り扱いをする設問が難化したことが考えられる。また，自然の事物・現象から課題を見いだし，目的意識をもって観察・実験を行うこと，科学的な言葉や概念を使用し，論理的に説明するなど思考力・表現力を育むことに課題が見られることも要因となっている。

（２）領域・分野ごとの分析・考察

【第１分野（44.4%)】

◇:抵抗に流れる電流の大きさを求めること〔3(2)〕

設問３(2)は，電圧と電流の関係を表すグラフを基に，指示された電圧での電流の値を求める問題で，ほぼ基準に到達している。

設問番号		問題の内容	正答率
3	(2)	電流の大きさ	69.9%

設問１(1)②の圧力計算や設問８(3)の湿度計算などその他の定量的な扱いにはまだまだ課題が見られるが，電流と電圧が比例関係にあることの理解が定着してきていることは，指導の成果である。今後も基礎・基本を踏まえ，生徒の計算力を高めつつ，個々の理解度に合わせた段階的な指導を継続して行うことが大切である。

▼:炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの違いを知る方法とその結果について推論すること〔5(4)〕

設問５(4)は，炭酸水素ナトリウムと，炭酸水素ナトリウムの加熱による分解で生成された炭酸ナトリウムとを区別する実験方法及び実験結果を考察し説明することは不十分である。誤答には，水に対する溶け方を調べるなどの実験方法は解答しているが，実験結果に炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの違いを明確にしていないものが見られた。

設問番号		問題の内容	正答率
5	(4)	炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの違いを調べる方法と結果	7.6%

指導に当たっては，炭酸水素ナトリウムの加熱による分解実験を行う際，課題を明確にするとともに，何のために行う実験なのかなど目的意識をもたせ，実験方法を考えさせたり，どのような実験結果が予想されるのかを十分に考えさせたりするなど，問題解決的な学習活動を行うことで，思考力・表現力を育むことが必要である。

▼:化学変化を原子･分子のモデルや化学反応式で表すこと〔7(2)(3)〕

化学変化について，設問７(2)のモデルや(3)の化学反応式で表すことは不十分である。23 年度類似問題のモデルの正答率は 46.6%，化学反応式の正答率は 44.8%であり，依然として課題が見られる。

設問番号		問題の内容	正答率
7	(2)	マグネシウムの酸化の原子・分子モデル	28.5%
	(3)	マグネシウムの酸化の化学反応式	35.3%

指導に当たっては，模型を用いるなどして目に見えない原子や分子をイメージしやすいように工夫しながら，モデルを描くときのルールを正しく理解させ，この分野全般に渡って化学変化（化学反応式）とモデルを関連付ける学習活動を十分に行い，微視的な見方や考え方を養うように指導を工夫する必要がある。(H22「分析・考察」 指導事例２参照)

【第２分野（56.4%）】

▼：卵の殻の役割について考察し表現すること〔4(3)〕

設問番号		問題の内容	正答率
4	(3)	卵の殻の役割	29.0%

設問４(5)(6)の脊椎動物の進化や相同器官のつくりなどこの分野での基礎的・基本的な知識は定着している。しかし，設問４(3)の産卵場所から卵の役割を考察し記述する問題のように，それぞれの動物の生態とその特徴を関連付けて，総合的に理解することは不十分である。

指導に当たっては，脊椎動物の仲間について，写真や映像等の視聴覚教材を利用したり，インターネットや図鑑等を使って調べ学習をさせたりしてそれらの共通点や相違点についての理解を深めることが重要である。その上で，卵の殻の有無について着目させ，その役割について考察させることが必要である。

▼：地層の重なり方や示準化石を手がかりとして，地層の生成年代を推定すること〔6(2)〕

設問番号		問題の内容	正答率
6	(2)	示準化石から年代を推定した根拠の確認	43.4%
	(3)	示準化石からの年代の推定	55.2%

設問６(2)(3)の示準化石についての理解は不十分である。古生代，中生代，新生代の水中や陸上の生物の様子について，示準化石を踏まえてそれぞれの時代の特徴を理解する指導が十分行われていないことが懸念される。

指導に当たっては，古生代，中生代，新生代の水中や陸上の生物の様子について，示準化石を示すだけではなく，教科書や資料集等の挿絵を提示しながら，その時代の様子を捉えさせることが必要である。例えば，古生代は水中で生物が繁栄していたことや中生代では陸上に生物が進出していたことなどが挙げられる。

▼：気温と露点から湿度を求めること〔8(3)〕

設問番号		問題の内容	正答率
8	(3)	気温と露点から湿度を求める	18.7%

設問８(3)の気温と露点から湿度を求めることは不十分であり，無解答率の高い設問の１つである。露点から湿度を求める方法が，十分に理解されていないものと考えられる。

飽和水蒸気量，湿度，露点の指導に当たっては，それらの意味を正しく理解させるように指導を工夫することが必要である。（H23「分析・考察」 指導事例１参照）

そして，実際に露点を測定し，気温と飽和水蒸気量の関係を表すグラフや表を使いながら湿度を求めるような学習活動を通して，露点，飽和水蒸気量等の科学的な知識や概念を使用して考えさせたり，説明させたりすることが重要である。

指導改善のポイント

□自然の事物・現象に対する基礎的な知識を身に付け，これらを基に科学的な見方や考え方を養う学習活動を重視すること　（→　事例１）

□実験を計画したり，結果を論理的に解釈したりするなど，思考力・表現力を育む学習活動を重視すること　（→　事例２）

※　下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

（3）改善に向けた指導事例

学びの指針 2

ア　事例１

自然の事物・現象に対する基礎的な知識を身に付け，これらを基に科学的な見方や考え方を養う学習活動を重視すること

①　問題の解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4(3)	第２分野 生物的領域	体の特徴を生活場所と関連付けて説明できる。	自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考・表現

4　美里さんは，動物園の行事に参加し，動物園の園長さんから動物の分類についての説明を聞きました。あとの問いに答えなさい。

動物の中には，背骨のある動物と背骨のない動物がいます。背骨のある動物は，体のつくりや子の生まれ方，呼吸のしかた，体温などの特徴によって分類できます。背骨のある動物を区別する手がかりを書いておきますから，動物の特徴を調べて分類してみて下さい。

園長さん

園長さんが書いた手がかり

① 体温が一定に保たれている
② 陸上に殻のある卵を産む
③ 親（成体）は肺で呼吸する
④ 子は母体内である程度育ってから生まれる

(3)　美里さんは，手がかりの②に書かれた卵の殻には，中身がつぶれないようにするほかに，別のはたらきがあることに気づきました。美里さんが気づいた卵の殻のはたらきとして考えられるものを１つ書きなさい。

正答例	誤答例	
乾燥に耐えるはたらき	・外敵（危険）から身を守るため ・栄養が入っているから	
正答率（準正答率）	**誤答率**	**無解答率**
29.0%　(0.2%)	56.2%	14.8%

②　指導改善に向けて

本設問の正答率は 29.0%と第２分野生物的領域の中で最も低い。誤答には「外敵から身を守るため」「栄養が入っているから」などが多く，卵の殻の働きが生活場所と関連していることに着目できていないと考えられる。

そのためにも，身近な動物を分類し，基礎的・基本的な事項をまとめ，観察・実験を通して，脊椎動物の体の特徴や子の生まれ方を生活場所等と関連付けて理解させることが大切である。

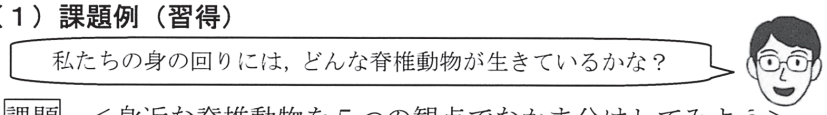
③　改善事例　第２学年　「脊椎動物の仲間について」

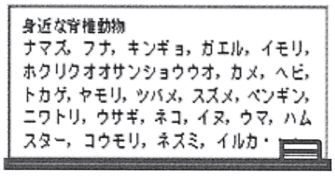
１　指導のねらい

脊椎動物の共通点や相違点に気付かせて一覧表にまとめる活動を行い，脊椎動物の体の特徴や子の生まれ方を生活場所等と関連付けて考察させる。

２　具体例

（１）課題例（習得）





課題　＜身近な脊椎動物を５つの観点でなかま分けしてみよう＞

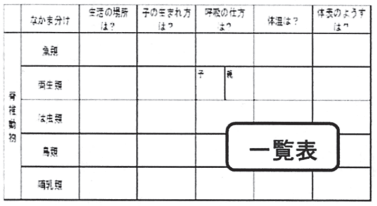
なかま分けの観点（特徴）は，
①生活場所②子の生まれ方③呼吸の仕方
④体温⑤体表のようす　です。

ナマズ，・・・
ガエル，・・・
トカゲ，・・・
ニワトリ，・・
ウサギ，
・・・
イルカ，・・・

②子の生まれ方で分けると・・・

まとめ　日常生活で得た知識や小学校の既習事項を基に，それぞれの観点でなかま分けをして一覧表にまとめる。

卵の殻の有無で，点線の中の動物をさらに２つに分けられるね。

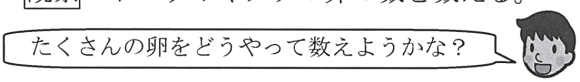


《ポイント》
- 分類する動物を生徒に挙げさせたり，動物を写真で示したり工夫して，興味・関心を高める。
- なかま分けの観点を生徒に考えさせてもよい。
- 分からない部分は，動物図鑑やインターネットを活用して調べさせる。

（２）課題例（活用・探究）※生活場所と体の特徴や子の生まれ方との関係を考察する学習活動の例

課題　＜子の生まれ方が違うのはどうしてだろうか＞

観察　トビウオやタラの卵の数を数える。



- 実験方法を工夫して，実際に魚の卵の数を数える。
- 資料を提示して，他の脊椎動物の産卵数と比較する。

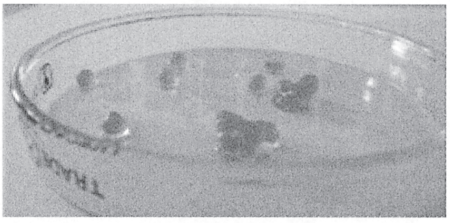
《資料》脊椎動物の産卵数
■魚類（卵生）
・マグロ　　１００万以上
・マンボウ　　２億～３億
■両生類（卵生）
・ヒキガエル　２０００～４５００
■は虫類（卵生）
・ヘビ　　５～１００
■鳥類（卵生）
・ツバメ　　３～７
■哺乳類（胎生）
・ヒト　　１～２

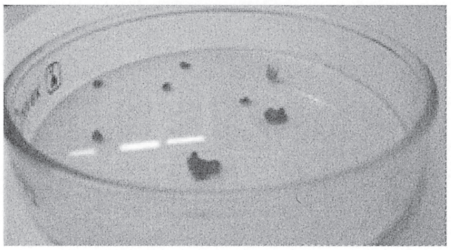
考察　産卵数と生活場所や生存率等の関連を考察する。

マンボウはすごくたくさん卵を産むけれど，どれくらい大人になれるのかな？

子どもの世話をする動物は，産卵数や一度に産む赤ちゃんの数が少ないね。

実験　ニワトリの卵と魚類の卵（人工イクラ）を使った乾燥の実験を行う。





〈ニワトリの卵と魚類の卵（人工イクラ）を冷蔵庫に２日間入れる〉

考察　卵の殻の役割について考察する。

卵の殻がないとしわしわになったよ。水分がなくなったのかな？

《ポイント》
- 観察・実験の結果を考察し，自分の考えを発表させる学習活動を行う。
- 写真や映像（理科ネットワーク，独立行政法人情報処理推進機構の教育用画像素材集等）を活用して，生活場所と体のつくりの関係の理解を深める。

学びの指針 2・3

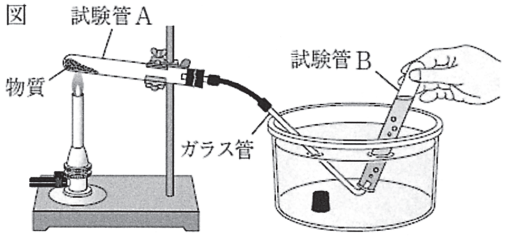
イ　事例２
　実験を計画したり，結果を論理的に解釈したりするなど，思考力・表現力を育む学習活動を重視すること

①　問題の解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(4)	第１分野 化学的領域	分解する前の物質と分解によって生成した物質の性質の違いを調べる実験を考えることができる。	観察・実験の技能

5　春子さんは，下の図のような実験装置を準備し，試験管Ａに物質を少量入れ，ガスバーナーで加熱しました。試験管Ａに入れる物質は，下の表の①～④の物質で，物質ごとに試験管Ａを新しくかえました。あとの問いに答えなさい。

図



表

	物　質
①	炭酸水素ナトリウム
②	酸化銀
③	塩化アンモニウムと水酸化カルシウム
④	酸化銅と炭素

(4)　①では，加熱を続けるとやがて気体が発生しなくなり，白い物質が残りました。春子さんは，試験管に残った白い物質は炭酸水素ナトリウムではないと考え，それを確かめる実験をすることにしました。春子さんは，どのような実験を行ったと考えられるか，その実験方法を１つ書きなさい。また，その方法で予想される結果を書きなさい。

正答例	誤答例
方法　加熱前後の物質をそれぞれ水にとかし，とけ方の違いを調べる。 　水にとかし，フェノールフタレイン溶液を入れ，色の違いを調べる。	方法　　結果 水に溶かす。　→　どちらが溶けやすいか区別なし。 塩酸を加える。　→　反応なし。 石灰水を入れる。　→　白くにごる。 磁石を近づける。　→　くっつかない。 再度加熱する。　→　別の物質ができる。
結果　加熱前の物質は水に少しとけ，加熱後の物質は全てとける。 　加熱前の物質はうすい赤色になり，加熱後の物質は，こい赤色になる。	

正答率	誤答率	無解答率
7.6%	53.0%	39.3%

②　指導改善に向けて

本設問の正答率は7.6%と最も低い。誤答には実験方法は正しいが，その結果の記述に不十分なものが見られ，題意に対して適切に解答することができていない。また，無解答率が 39.3%と高く，この実験の目的が十分に理解できていないと考えられる。

そのためには，カルメ焼きをつくる体験のような日常生活と関連した事象を取り入れ，目的意識をもたせ，実験を計画したり，結果から論理的に考察したりするなどの学習活動を進めていくことが大切である。

③　改善事例　第２学年　「物質の成り立ち」

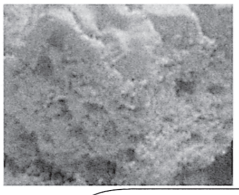
１　指導のねらい

具体的な事物・現象から問題を見いだし，実験方法を考えたり，その結果から論理的に考察したりする力を育てる。

２　具体例

（１）課題例（習得）

導入　砂糖水を煮詰めた後で，炭酸水素ナトリウムを加えて，かき混ぜるとふくらむ「カルメ焼き」をつくる体験をする。



カルメ焼きの断面を見てください。

穴が開いているぞ。気体が抜けた穴かな？

発生した気体は何だろう？

《ポイント》
- 炭酸水素ナトリウムを加えた瞬間のふくらむ現象やできあがったカルメ焼きの断面を見せることで，気体が発生したことに気付かせる。
- 炭酸水素ナトリウムを加えない場合と比較させる。

課　題　＜炭酸水素ナトリウムを加熱すると何が発生するのだろう＞

実験１　炭酸水素ナトリウムを加熱したときに発生する気体を調べる。

《ポイント》
- 発生する気体を予想させ，その気体に対する実験方法を考え確かめさせる。
- 試験管の口に溜まっている液体についても調べさせる。

二酸化炭素と水ができたことが確認できましたね。加熱後に試験管に残った白い物質は何かな？

実験２　炭酸水素ナトリウムを加熱した後に残った白い物質の性質について調べる。

《ポイント》
- 炭酸水素ナトリウムと加熱後に残った白い物質について同じ物質か違う物質であるかを調べる方法（実験）を既習事項から考える。
  ※炭酸水素ナトリウムと加熱後に残った白い物質を水に溶かして溶け方の違いを調べたり，その水溶液にフェノールフタレイン溶液を加えたときの色の変化を調べたりすることが考えられる。
- 安全を確認し，計画にそった実験をさせ，実験結果を正確に記録させる。
- 実験１・２の２つの実験結果から分かることを考察し，「分解」についてまとめさせる。

１年生で学習した白い粉末を調べる方法で調べてみよう。

実験１と２の結果から，炭酸水素ナトリウムは，加熱すると二酸化炭素，水ともとの物質とは違う物質になったことが分かります。

そうですね。加熱後に残った物質は，「炭酸ナトリウム」といいます。この実験のように，１つの物質が２つ以上の違う物質に分かれる化学変化を『分解』といいます。

（２）課題例（活用・探究）　※実験１・２の後に，発展的な学習を設定する。

課　題　＜ホットケーキの材料にムラサキイモの粉末を加えて加熱すると，色が緑色になるのはなぜだろう＞

《ポイント》
- 「予想→実験計画→実験→結果→考察」のような問題解決的な学習活動を行い，思考力・表現力を育む指導を充実させる。
  ※学び合いを通して，生徒が多面的・多角的に思考する学習活動を行う。
  ※考察場面では，実験結果を予想と照らし合わせて考えさせたり，科学的な概念を使用して考え説明させたりするなどの学習活動を行う。

ホットケーキの材料は，
・小麦粉　・ムラサキイモの粉末
・ふくらし粉　・たまご　・水　ですね。
どの材料が色の変化に関係しているのかな？

ふくらし粉には，炭酸水素ナトリウムが入っているから，発生した二酸化炭素や炭酸ナトリウムが関係あるのかな？

中学校第３学年　英語

平均正答率
57.4%

（１）全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は57.4%で，昨年度より6.1ポイント下がっている。活用力を見る問題を充実する中で，設問３ No. 3の要点の聞き取りや設問９の状況に合う英文への書きかえの難易度が上がったことが一因である。語彙や文法などの言語知識を活用しながら，まとまった量の英文を適切に読む力及びまとまった内容の英文を適切に書く力については，依然，課題が見られ，指導の改善が求められる。

（２）領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと（69.5%）】

○：短い英文とその内容に関する質問を正しく聞き取ること〔１〕

設問１は，No.1，No.2の問題で正答率が 95%を超えており， 短い英文とその内容に関する質問からキーワードを正しく聞き取ることは，概ね良好である。

設問番号		問題の内容	正答率
1	No.1	短い英文の内容（なりたい職業）の聞き取り	99.4%
	No.2	短い英文の内容（起床時間）の聞き取り	95.3%
	No.3	短い英文の内容（出発日）の聞き取り	59.0%

▼：情報を整理しながら，内容の要点を適切に聞き取ること〔３〕

設問３ No. 2の祖母へのプレゼントの聞き取りの正答率は80%を超えた。一方，問われた内容が直接述べられておらず推測を要するNo. 1，3の正答率は，60%を割った。No. 3は時間(hour)と分(minute)の情報が混在するので難しいとはいえ，情報を整理しながら内容の要点を適切に聞き取ることは，不十分である。

設問番号		問題の内容	正答率
3	No.1	内容の要点（対話の場所）の聞き取り	58.4%
	No.2	内容の要点（祖母へのプレセント）の聞き取り	82.2%
	No.3	内容の要点（映画の開始時間）の聞き取り	23.8%

指導に当たっては，まとまった量の英文を聞かせて，メモしたキーワードから端的に言えることを考えさせたり，情報を時間軸や空間軸に沿って整理させたりする指導を一層工夫することが重要である。

【読むこと（60.9%）】

▽：言語の使用場面・働きや語句の役割に気を付けながら，短い英文を正しく理解すること〔４〕

設問４ (2)の人称代名詞（所有格）を用いた英文の理解は，24年度の同問の正答率を7.1ポイント上回った。しかし，(1)(5)(6)の誤答を分析すると，会話の流れにふさわしい表現や英文の形を選択していないので，全体としては，言語の使用場面・働きや語句の役割に気を付けながら短い英文を正しく読み取ることは，十分とはいえない。

設問番号		問題の内容	正答率
4	(1)	一般動詞の疑問文(Do you ～?)の理解	64.3%
	(2)	人称代名詞(所有格)を用いた英文の理解	64.5%
	(5)	言語の働き(相手の行動を促す)に応じた英文の理解	63.1%
	(6)	言語の使用場面(電話での応答)に応じた英文の理解	55.9%

指導に当たっては，言語の使用場面や働きを意識した導入や練習を行い，形・意味・用法を合わせて理解させることが大切である。語彙に関する知識を確実に定着させるため，品詞についても，より一層重視すべきである。

▼：まとまりのある英文を読んで，情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を読み取ること〔７，８〕

設問７の正答率は45.5%で，同問であった24年度を3.8ポイント下回り，昨年度の指導上の課題は解決されていない。誤答例を見ると，時間を追って列挙された情報やplay tennisという語句は認識できているが，I wanted to play tennis…からbut he had other

設問番号		問題の内容	正答率
7		全体の概要の読み取り	45.5%
8	(1)	内容(人数)の読み取り	59.1%
	(2)	書き手(話し手)の意向の読み取り	60.1%
	(3)	詳細な情報の読み取り	39.8%

things to do, so I couldn't.に至る全体の意味を理解できていない誤答が多く見られた。また設問８では，書き手の意向を判断し，具体的な問題点が書かれている箇所の読み取りができない誤答が見られた。したがって，まとまりのある英文を読んで情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を適切に読み取ることは，不十分である。

指導に当たっては，与えられた発問による必要な情報の取り出しに終始するのではなく，短時間でまとまった量の英文を読ませ，得られた情報を基に文章全体の意味を見いだす活動を設定することが必要である。その際，年間指導計画や単元指導計画を工夫して，教科書本文の読み取りを通して身に付けた技能を類似の話題や同レベルの別の英文を読む活動に適用させ，付けたい力が身に付いたか生徒の到達状況を複数回評価することが大切である。

【書くこと（44.3%）】

▼：語順や語形に気を付けながら，場面や状況に応じて正しく書くこと〔５，９〕

設問５（1）は，主語＋動詞＋目的語という英語の典型的な文構造であったが，題意をよく理解できなかった生徒もいたためか，正答率は45.6%と低かった。また，(2)は修飾されている名詞が主語であるため，調査実施時点の生徒にはやや難解であった。また設問９は，立場を変えて，インタビュー内容を別の表現に書きかえる24年度と同じ形式の問題であったにもかかわらず，正答率は非常に低く，また無解答率は高かった。補う語数が増えるなど，状況に応じた語句の選択がやや難しくなった面はあるものの，語順や語形に気を付けながら場面や状況に応じて正しく書くことは，不十分である。

設問番号		問題の内容	正答率	無解答率
5	(1)	主語＋動詞＋目的語を用いた英文の語順	45.6%	1.6%
	(2)	前置詞句の後置修飾を用いた英文の語順	34.8%	2.2%
9	(1)	状況に合う英文(主語＋be 動詞)への書きかえ	19.1%	14.6%
	(2)	状況に合う英文(一般動詞)への書きかえ	7.5%	24.0%
	(3)	状況に合う英文(接続詞 because)への書きかえ	25.8%	26.2%

状況に合う英文への書きかえの指導に当たっては，次のような４技能の統合的な言語活動が必要である。
① 文章レベル：会話を客観的に書きかえたり，理解したことを自分の言葉でまとめたりすること
② 文 レ ベ ル：与えられた英文を既習の語彙や表現を用いて書きかえること

▼：言語の使用場面や働きに応じて，適切に書くこと〔６〕

設問６は，従来の日本語で言語の使用場面や働きを与える形から，絵を見て判断して適切に書く形に変更された。それによって表現の自由度は上がったが，(3)をはじめ無解答率が高かった。また，Where do you Kenrokuen? のような文法の誤りが多く見られた一方で，This is Kenrokuen.や Is there Kenrokuen?など，言葉が足りない英文も見られたことから，言語の使用場面や働きに応じて適切に書くことは，不十分である。

設問番号		問題の内容	正答率	無解答率
6	(1)	言語の使用場面・働き（苦情を言う）に応じた筆記	59.0%	17.6%
	(2)	言語の使用場面・働き（申し出る）に応じた筆記	55.9%	19.7%
	(3)	言語の使用場面・働き（質問する）に応じた筆記	38.6%	25.0%

指導に当たっては，スキットづくりなどにおいて，新出表現を用いた英文の一部の書きかえにとどまるのではなく，対話の流れを理解し，既習の表現を自ら選択する機会を設け，できた英文を交流する学習活動を通して，言語の使用場面や働き及び言語の形式に注意を向けさせる指導が必要である。

指導改善のポイント

□具体的で分かりやすい場面や状況を工夫し，語彙や文法などの知識の習得を図りながら，言語の使用場面や働きに応じた適切な表現を選択したり自ら考えたりする力を高めること　（→　事例１）
□まとまった量の英文を短時間で読み進める場を第１学年から計画的に設定し，情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を理解する力を段階的に高めること　（→　事例２）

※　下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

（３）改善に向けた指導事例

学びの指針 3

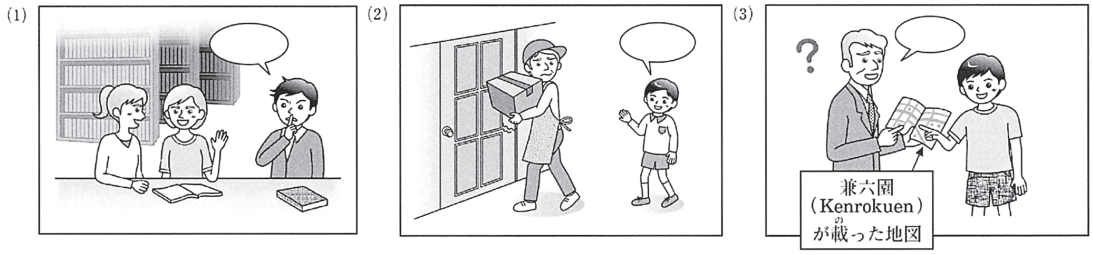
ア　事例１

具体的で分かりやすい場面や状況を工夫し，語彙や文法などの知識の習得を図りながら，言語の使用場面や働きに応じた適切な表現を選択したり自ら考えたりする力を高めること

①　問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6	書くこと	言語の使用場面・働きに応じた表現を用いて正しく書くことができる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力

6　次の(1)～(3)のような場合，吹き出しにはどのような英文が入りますか。（例）を参考にして，それぞれ２語以上の英文で書きなさい。



正答例（準正答例）	誤答例	
(1) Stop talking, please. (Stop tolking.) (2) Shall I help you? (Shall I open door?) (3) Excuse me. Where is Kenrokuen? (Excus me. Where is the Kenrokuen?)	(1) Don't talking. / No speak. (2) Can you help me? (3) This is Kenrokuen.	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
(1) 59.0%　(45.0%) (2) 55.9%　(12.0%) (3) 38.6%　(17.8%)	(1) 23.4% (2) 24.4% (3) 36.4%	(1) 17.6% (2) 19.7% (3) 25.0%

②　指導改善に向けて

設問６では，示された絵の場面や状況を判断して，適切な表現を用いて正しく書くことが不十分であった。場面や状況に応じて適切に伝える力を高めるためには，生徒に具体的で分かりやすい場面や状況を設定し，言語の使用場面・働きを意識させ，それにふさわしい英文の形式を判断させながら，適切な表現を選択したり自ら考えたりする力を高める指導の充実を図ることが重要である。また，新出の語彙や文法事項ばかりでなく既習についても活用させながら習得を図ることや，短時間の学習を繰り返し行う帯学習などを通して基本的技能を高めることも大切である。

③改善事例　　第２学年（学年段階や学習状況に応じて）

１　指導のねらい

場面や状況にふさわしい英文の形式を判断させ，適切な表現を選択したり自ら考えたりする力を高める。

◇言語の使用場面・働きを意識させ，適切な文の形式を判断させる事例
◇国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）」15～17 ページ参照

２　具体例

[Step 1] 考え方を学ばせる

(1) 教師が場面や状況を設定する。

(2) 空所にふさわしい英文を考えさせる。

A: It's hot. ＿＿＿＿＿＿＿＿

B: All right.

(3) 空所にふさわしい英文を考えさせる。

A: It's hot.

B: ＿＿＿＿＿＿＿＿

A: Yes, please.　Thank you.

〔e 相手の行動を促す〕
Please open the window.
Can you open the window?（依頼する）
Let's open the window(s).（誘う）　など

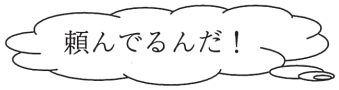
〔d 考えや意図を伝える〕
Shall I open the window?
Can I open the window?（申し出る）　など

指導のポイント

- □ 場面設定は，絵や ALT との対話で示すなど工夫するとよい。慣れてきたら，場面や状況を生徒に考えさせることも可能。
- □ STEP 1 の(2)と(3)を通して，場面や状況が変わるとふさわしい英文の形式が異なること（吹き出しの下線部の助動詞と主語）に気付かせることが本事例のポイント。
- □ まず個人で考えさせ，その後，意見交流の場でそれぞれがふさわしい英文か判断させる。
- □ 様々な英文の形式に慣れ，表現につながるよう，ＡＢ両方の役でロールプレイさせる。
- □ 学習段階によっては，選択肢を与えて正しいものを選ばせてもよい。

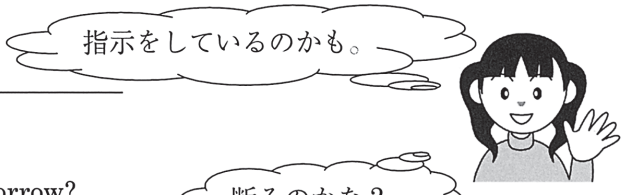
[Step 2] 学んだことを様々な場面に適用させる

1. A: This question is too difficult for me.
   ＿＿＿＿＿＿＿＿
   B: No problem.　Show me.

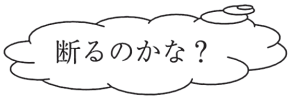


2. A: It's rainy today.　We can't play tennis in the park.
   B: ＿＿＿＿＿＿＿＿
   A: That's a good idea!

3. A: It's eleven at night.
   ＿＿＿＿＿＿＿＿
   B: Sorry, Mom.



4. A: Would you like to go shopping tomorrow?
   B: ＿＿＿＿＿＿＿＿
   A: I see.　Maybe some other time.



これまでに習った様々な表現が使えますよ。どんな表現があったか思い出してみましょう。

リストを作って違いを示してもよいでしょう。
例１）Could you ~? / Would you ~? / Can you ~? / Will you ~? / Please ~.
例２）You must ~. / You have to ~. / You had better ~. / You should ~. / You can ~.

学びの指針 3

イ　事例２

まとまった量の英文を短時間で読み進める場を第１学年から計画的に設定し，情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を理解する力を段階的に高めること

①　問題と解答の状況

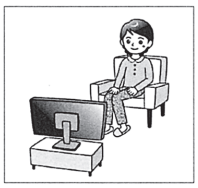
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7	読むこと	全体の概要を適切に読み取ることができる。	・外国語理解の能力

7　久美さんは，英語の授業で，「私の一日」というテーマで作文を書きました。次の英文を読み，久美さんがしたことを表す適切な絵を，ア～カから４つ選び，行動した順番に並べなさい。

I got up at eight this morning.　In the morning, I cleaned my room.　Then I went shopping with my mother.　I bought a T-shirt and came home.　My father was making lunch at that time.　He said, “Can you help me?”　So I helped him.　Today’s lunch was very good.

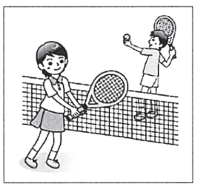
In the afternoon, I studied English for two hours for an English test tomorrow.　After that, I wanted to play tennis with my brother in the park, but he had other things to do, so I couldn’t.　I watched TV in my room.

ア



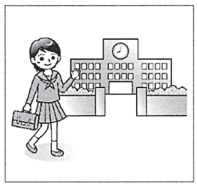
イ

ウ

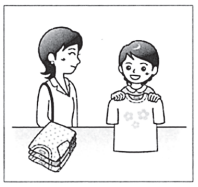


エ

オ



カ



正答例	誤答例	
カ→エ→イ→ア	カ→エ→イ→ウ　/　カ→エ→ウ→ア	
正答率	誤答率	無解答率
45.5％	53.4％	1.1％

②　指導改善に向けて

設問７では，第２段落で久美さんが結局何をしたのかについて，語彙や文法事項を処理しながら得られた情報を整理できなかった生徒が多かった。取り出した情報を整理する力を身に付けさせるためには，教科書中の語彙や文法事項を定着させ，内容を正確に読み取る技能を習得させるとともに，それらの知識・技能を活用して目的に応じた速度や方法で，初見の文章の全体像を適切に読み取る練習が必要である。その際，物語文・説明文などの形式や文章構造に，生徒が自ら気付くように指導を工夫することが大切である。

③改善事例　　第１・２学年（学年段階や学習状況に応じて）

１　指導のねらい

年間指導計画・単元指導計画を工夫し，まとまった量の英文を短時間で適切に理解する力を高める。

◇文章構造の知識を高めながら，概要や要点の読み取りに慣れるための事例

２　具体例

[Step 1] 教科書の文章を使って，読み方を学ばせる

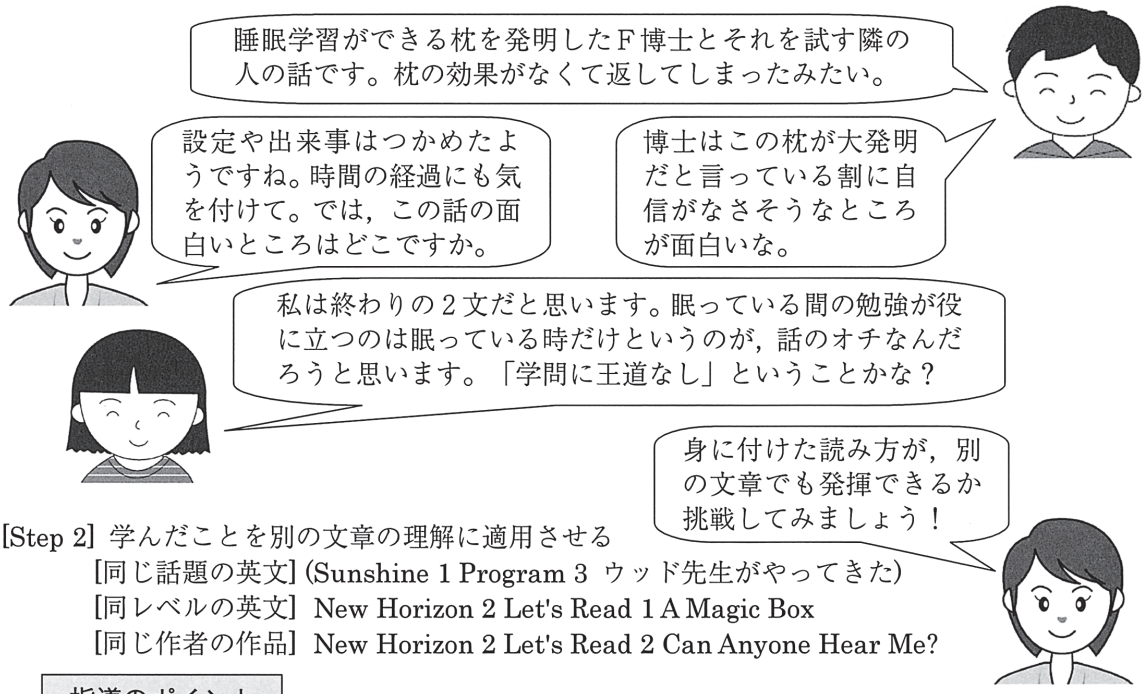
(New Horizon 1 Unit 3 はじめまして,ブラウン先生)
Sunshine 2 Program 4 The Pillow

(1) 〔プレ・リーディング〕
- 題名や導入文，挿絵などから内容を予測する。
- 写真や映像等で最低限必要な情報を得る。
- 全体の理解に最低限必要な語彙知識を得る。

(2) 読みの目的（概要・要点の理解）を確認して，読もうとする意欲を高める。
(3) 時間を区切って，文章全体を通して読む。
(4) テキスト形式〔物語文・説明文〕に着目する。
(5) 何度も読み，文章構造に気付く。
(6) 概要・要点を自分なりにまとめる。
(7) 概要・要点について意見交流をする。

〔説明文〕
・文章構造を意識させる。
・文章構造のシグナル（テキスト・マーカー）に着目させる。
(例) 原因・条件・結果 (because, if)
比較・対照 (but, however)
例証 (for example, such as)
順序 (first, second, third, ..., next, then, finally) など

〔物語文〕
・次のようなことを意識させる。
設定（登場人物・場所・時間）
出来事
登場人物の反応
結末　　など



[Step 2] 学んだことを別の文章の理解に適用させる

[同じ話題の英文] (Sunshine 1 Program 3 ウッド先生がやってきた)
[同レベルの英文] New Horizon 2 Let's Read 1 A Magic Box
[同じ作者の作品] New Horizon 2 Let's Read 2 Can Anyone Hear Me?

指導のポイント

□　付けたい力を明確にし，読む活動を繰り返し行わせて，学びを実感させる。
□　文章構造の気付きを促すために，学習段階に応じた次のようなタスクなども工夫する。
①繰り返し現れる語，名詞・動詞等のキーワードを抜き出してマッピング（ウェビング）
②話の内容からタイトルを推測し，考えの根拠を説明
③話の次の展開を予測
④バラバラの段落や文を正しく並べかえ（H20「分析・考察」参照。）
□　生徒の実態や時間数に応じて，スモールステップにする，タスクを少なくする，質問文を簡単にする，時間を多く与えるなどして，活動の難易度を調整する。

Ⅱ　質問紙調査結果の分析・考察

1　小学校第４学年児童の調査結果

各教科等の勉強が好き，授業の内容がよく分かると答えた児童の割合は，多くの教科で調査開始以来最も高くなっており，全般的に小４児童の学習意欲は高い。また，「学校は好きだ」と答えた児童の割合も昨年同様に高く推移している。

学びの指針 4･5

○「国語の授業で自分の考えを話したり，書いたりしている」(79.4%)，「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」(84.4%)，「自分の考えを発表する機会が与えられている」(81.0%）は，いずれも調査開始以来最も高く，授業への積極的な態度については改善が進んでいる。

学びの指針 7

○「学校の宿題をしている」(96.6%）は高い数値である。しかし，「自分で計画を立てて勉強している」(70.0%）等，十分とはいえず改善の余地があるものがあった。
○「テレビゲームを１時間以上している」(45.1%)，「携帯電話で通話やメールなどをしている」(19.8%）は，年々増加しているので，今後注視していく必要がある。

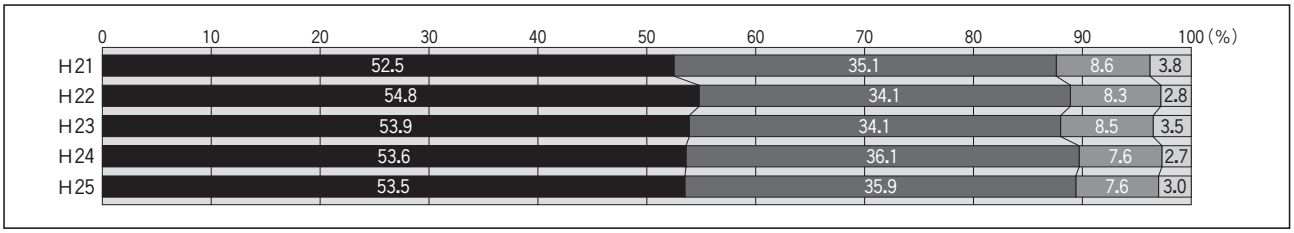
学びの指針 10

○「ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある」(92.5%）や「将来の夢や目標を持っている」(86.7%）等，小４児童の自己肯定感は昨年と同様に高い。

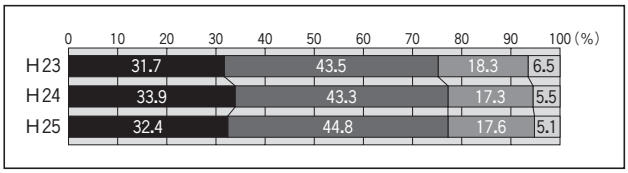
※無回答を除いた割合で示している。

1　学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

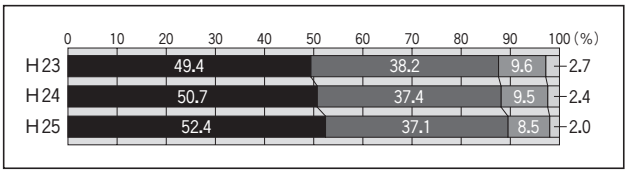
《学校は好きだ》



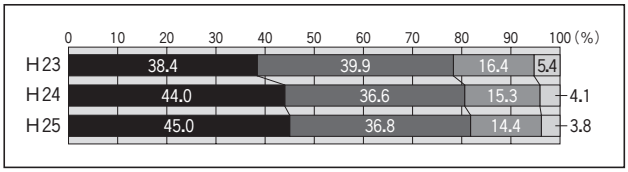
《国語の勉強は好きだ》



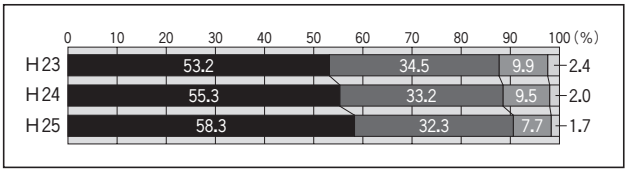
《国語の授業の内容はよくわかる》



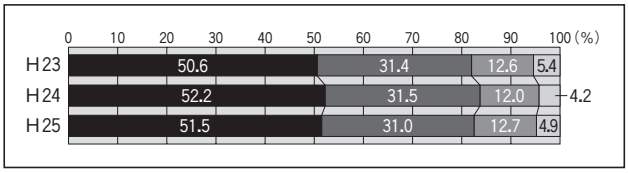
《社会の勉強は好きだ》



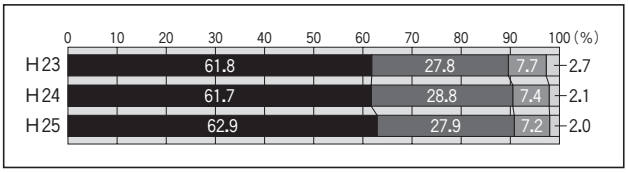
《社会の授業の内容はよくわかる》



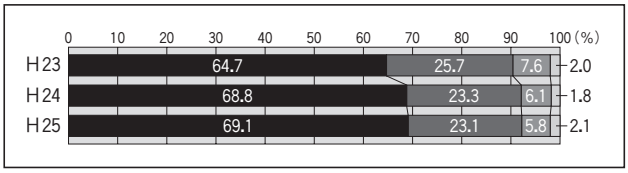
《算数の勉強は好きだ》



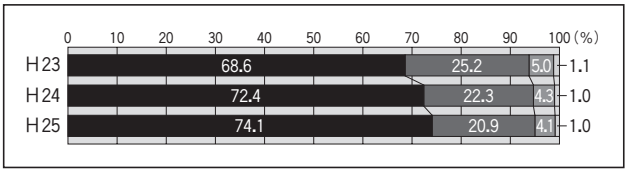
《算数の授業の内容はよくわかる》



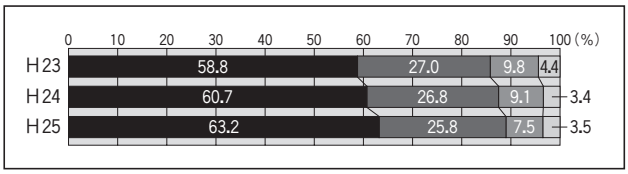
《理科の勉強は好きだ》



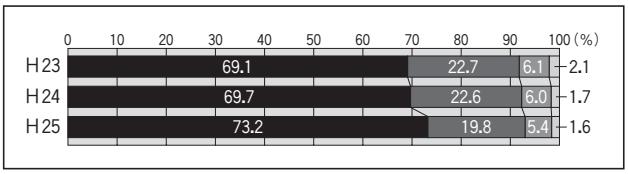
《理科の授業の内容はよくわかる》



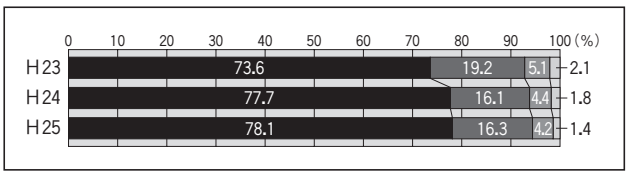
《音楽の勉強は好きだ》



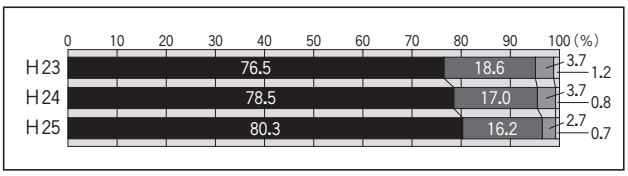
《音楽の授業の内容はよくわかる》



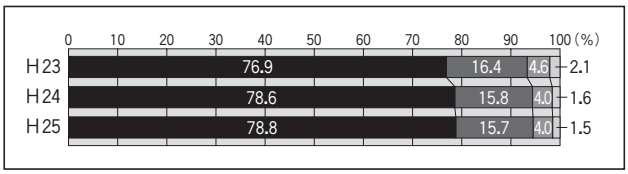
《図画工作の勉強は好きだ》



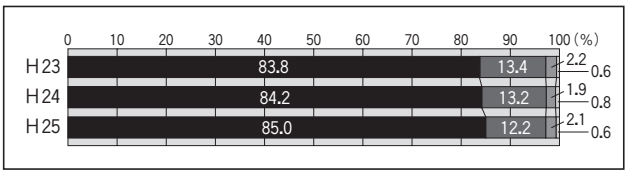
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



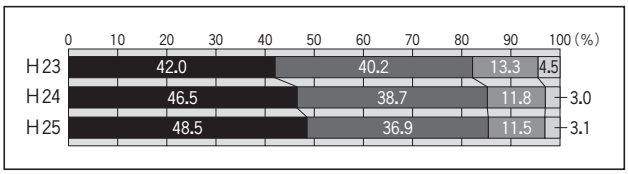
《体育の勉強は好きだ》



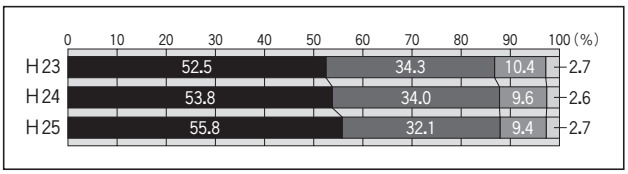
《体育の授業の内容はよくわかる》



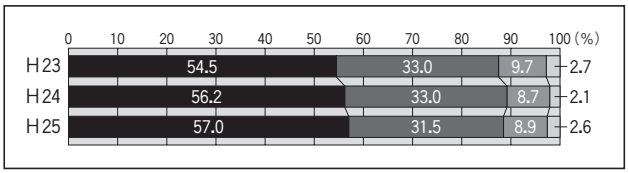
《道徳の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

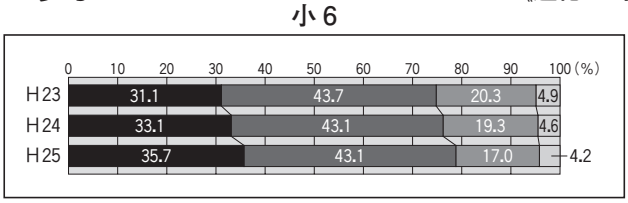


・《学校は好きだ》について，「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は89.4％であり，これまでと同様に高い。
・各教科の《勉強が好きだ》について，「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は77.2％～94.5％であり若干の開きがあるが，多くの項目で調査開始以来最も高い。
・各教科の《授業の内容はよくわかる》について，「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は89.5％～97.2％であり，これまでと同様に高い。

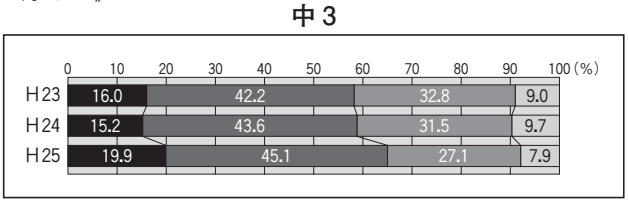
＜参考＞

《道徳の時間は好きだ》

小６

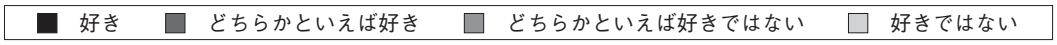


中３

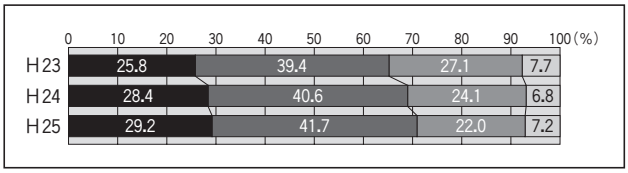


・《道徳の時間は好きだ》について，どの学年も「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童生徒の割合は昨年より増加しており，調査開始以来最も高い。

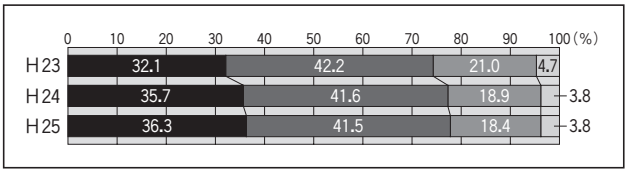
2　授業の中で次のようなことは好きですか。



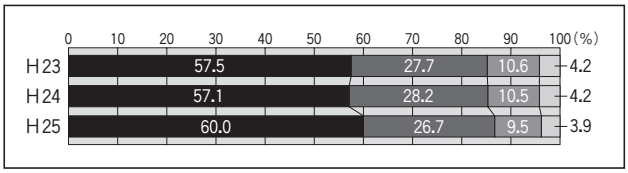
《自分の考えを発表したり，話し合ったりすること》



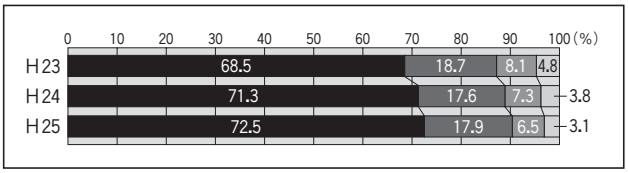
《課題について，自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



《少ない人数やグループで勉強すること》



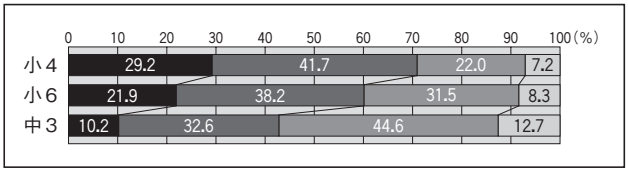
《コンピュータやビデオ・ＤＶＤなどを使って勉強すること》



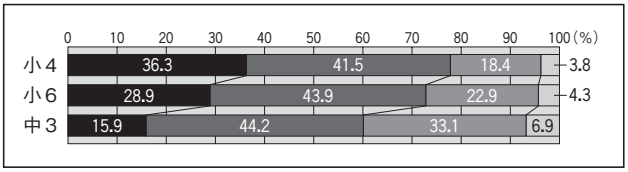
・《自分の考えを発表したり，話し合ったりすること》について，「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童の割合は，70.9％であり，調査開始以来，初めて70％を超えた。
・《課題について，自分の考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》《少ない人数やグループで勉強すること》《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》について，「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童の割合は，77.8％～90.4％であり，調査開始以来最も高い。

＜学年間比較＞

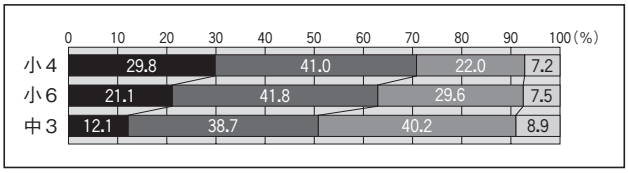
《自分の考えを発表したり，話し合ったりすること》



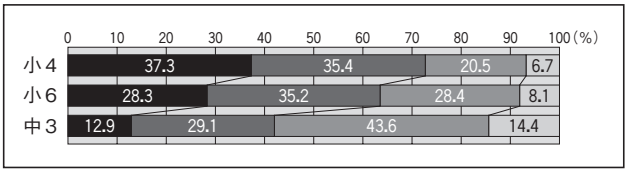
《課題について，自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



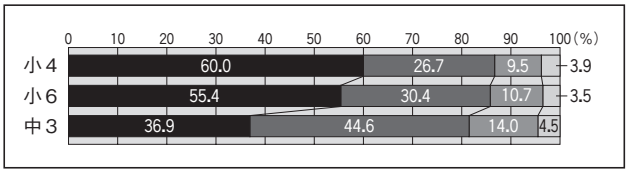
《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》



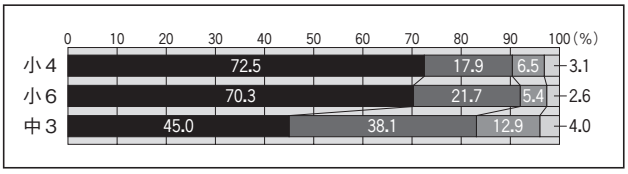
《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



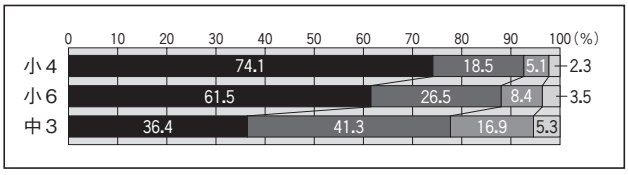
《少ない人数やグループで勉強すること》



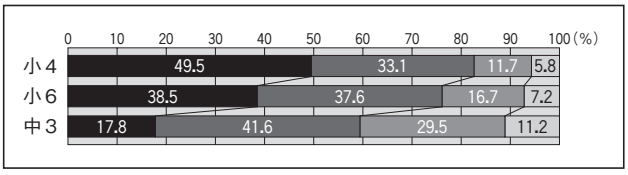
《コンピュータやビデオ・ＤＶＤなどを使って勉強すること》



《図書室を使って勉強すること》



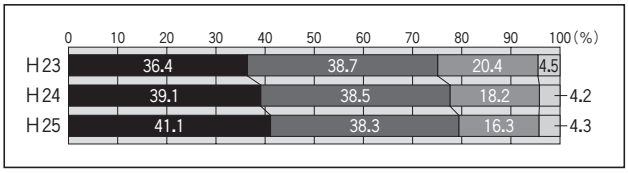
《地域の人や専門家が来て教えてくれること》



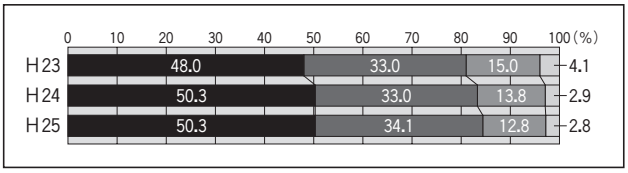
・《自分の考えを発表したり話し合ったりすること》《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》が「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童生徒の割合について，小４と小６との差は10ポイント程度，小４と中３との差は20～30ポイント程度あり，他の項目に比べて学年間の差が大きい。
・《少ない人数やグループで勉強すること》《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》について，「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合は，いずれの学年も高く，他の項目に比べて学年間の差が小さい。

3　次のことは，あなたにどれくらいあてはまりますか。

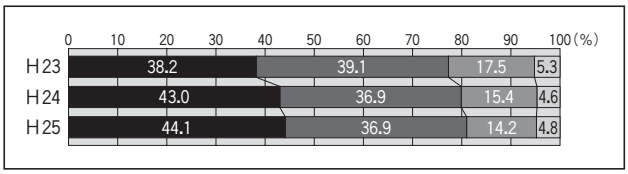
《国語の授業で自分の考えを話したり，書いたりしている》



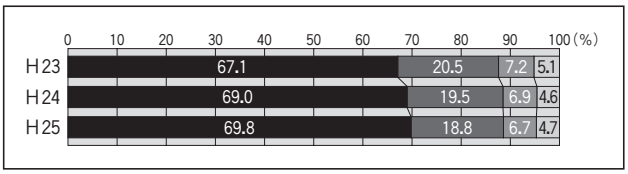
《算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている》



《ふだんの授業では，自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》

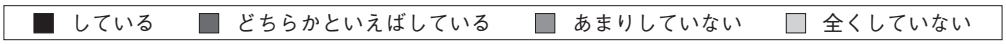


《読書は好きだ》

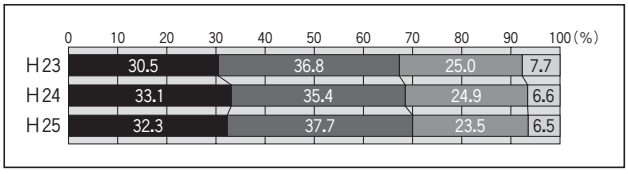


・《国語の授業で自分の考えを話したり，書いたりしている》《算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている》《ふだんの授業では，自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》について，「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は，それぞれ79.4%，84.4%，81.0%であり，調査開始以来最も高い。
・《読書は好きだ》について，「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童は88.6%であり，これまでと同様に高い。

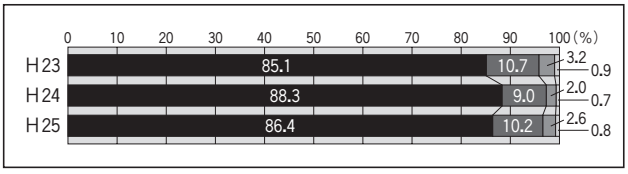
4　家で次のようなことをしていますか。



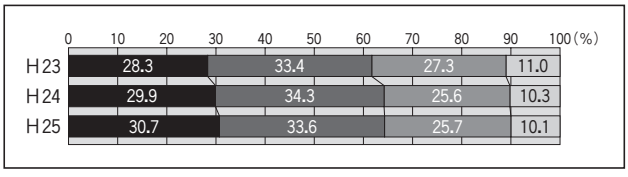
《自分で計画を立てて勉強をしている》



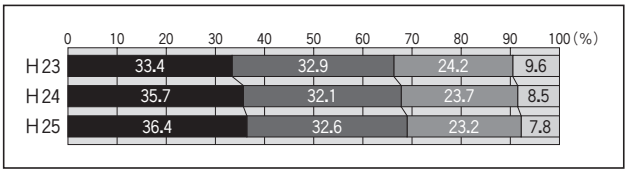
《学校の宿題をしている》



《学校の授業の予習をしている》



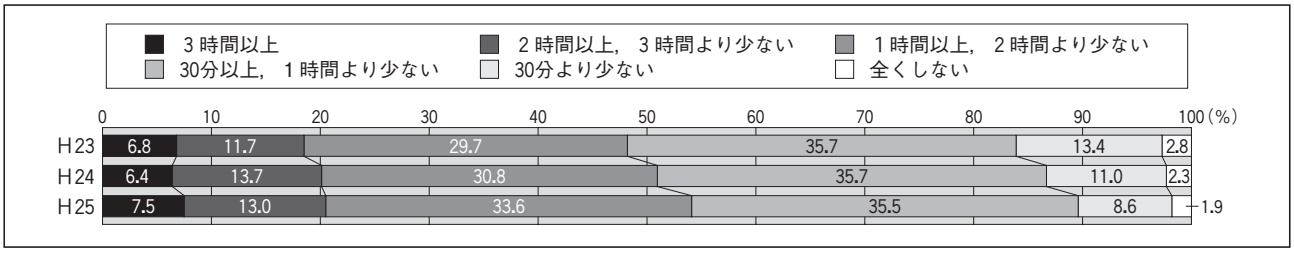
《学校の授業の復習をしている》



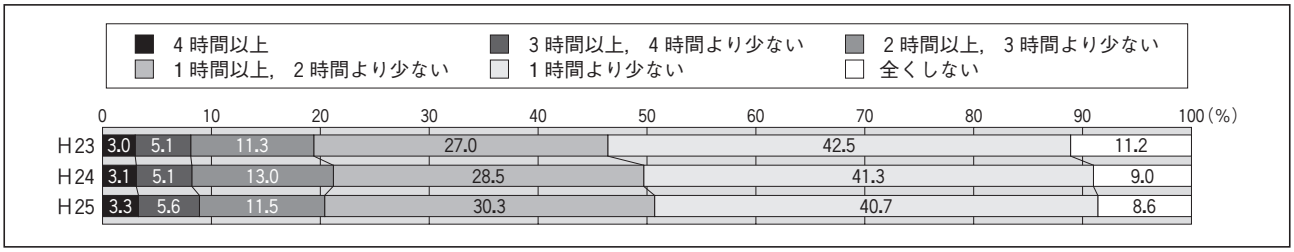
・《学校の宿題をしている》について，「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は96.6%であり，ここ数年，高い数値が続いている。
・《自分で計画を立てて勉強している》《学校の授業の予習をしている》《学校の授業の復習をしている》について，「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は，それぞれ70.0%，64.3%，69.0%であり，いずれも調査開始以来最も高い。

5　1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

《ふだん（月曜日から金曜日）》

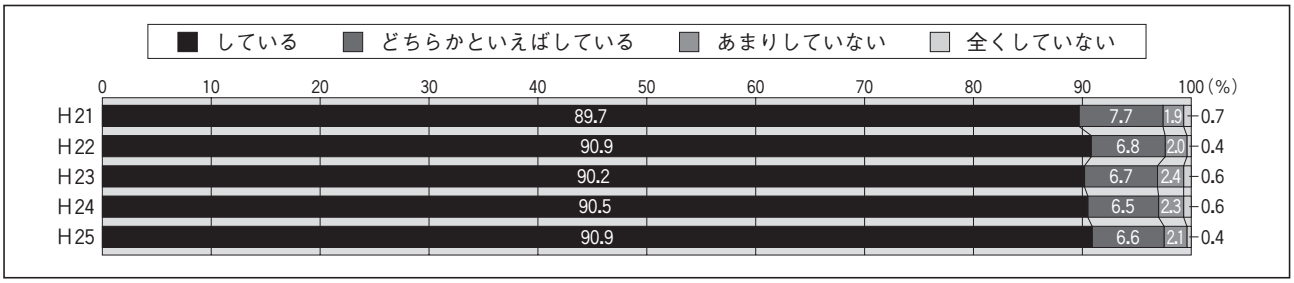


《土曜日や日曜日など学校が休みの日》



・家庭学習時間について，平日に30分以上勉強する児童の割合は，89.6％と24年度より３ポイント増加しており，調査開始以来最も高い。また，土曜日や日曜日に１時間以上勉強する児童の割合は50.7％と，ふだん１時間以上勉強すると答えた児童の割合より低い。

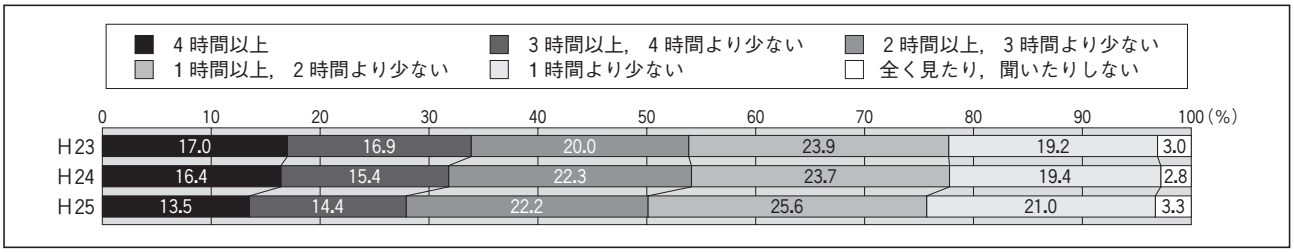
6　朝食を毎日食べていますか。



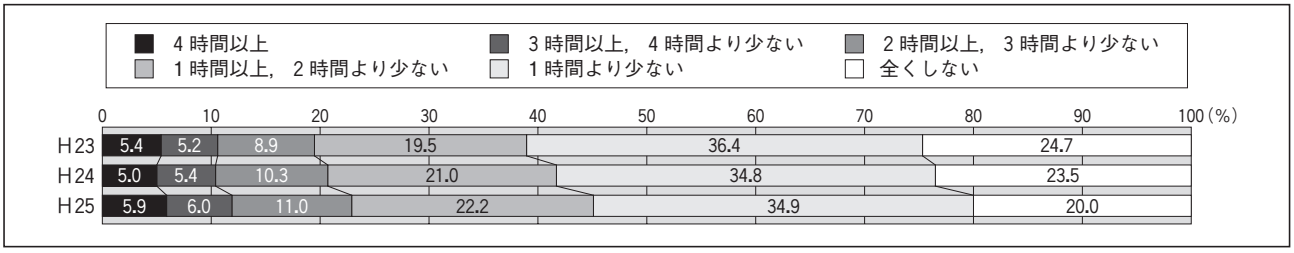
・《朝食を毎日食べている》について，「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は97.5％であり，これまでと同様に高い。

7

⑴　ふだん（月曜日から金曜日），１日あたりどれくらいの時間，テレビやビデオ，ＤＶＤを見たり，聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）

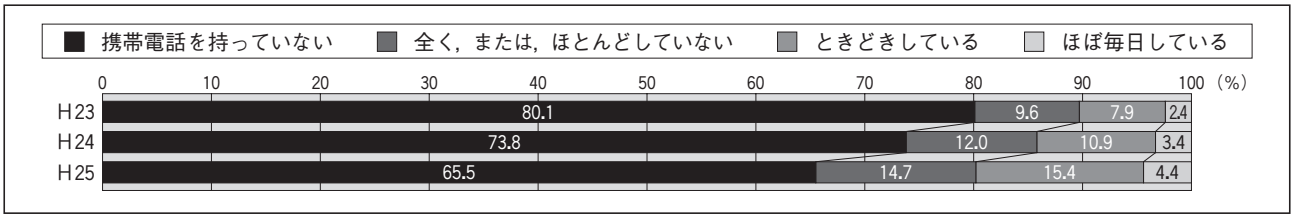


⑵　ふだん（月曜日から金曜日），１日あたりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲームを含みます。）をしますか。



・ふだんのテレビ等の視聴時間について，「４時間以上」「３時間以上，４時間より少ない」と答えた児童の割合は，27.9％と24年度より3.9ポイント減少している。
・ふだんのテレビゲーム等について，１時間以上すると答えた児童の割合は，45.1％と24年度より3.4ポイント増加している。また，「全くしない」と答えた児童の割合は，20.0％と24年度より3.5ポイント減少している。

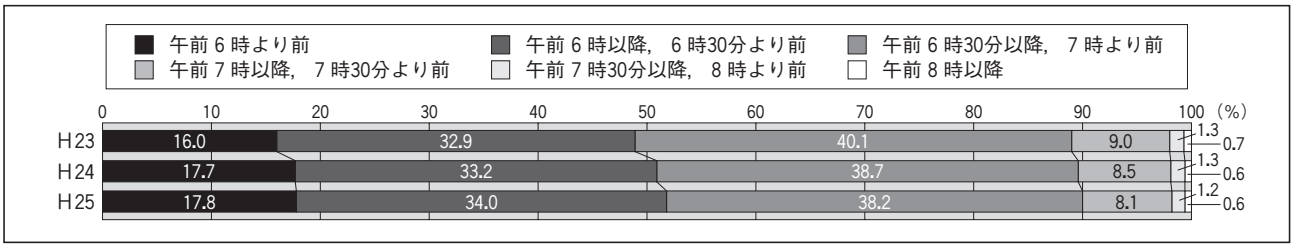
8　携帯電話で通話やメールなどをしていますか。



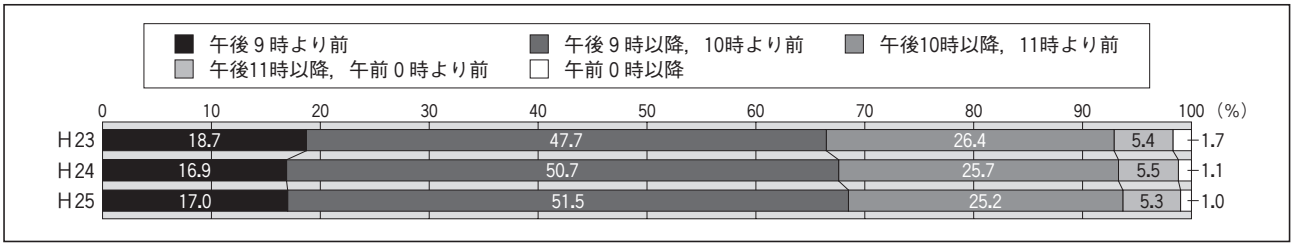
・「ときどきしている」「ほぼ毎日している」と答えた児童の割合は，19.8％と24年度より5.5ポイント増加しており，調査開始以来最も高い。

9

(1)　ふだん（月曜日から金曜日），何時ごろに起きますか。



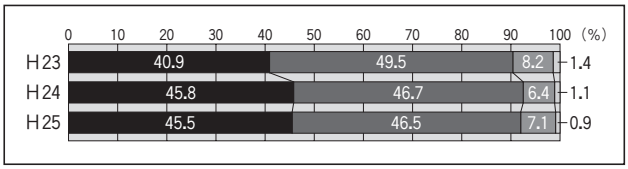
(2)　ふだん（月曜日から金曜日），何時ごろにねますか。



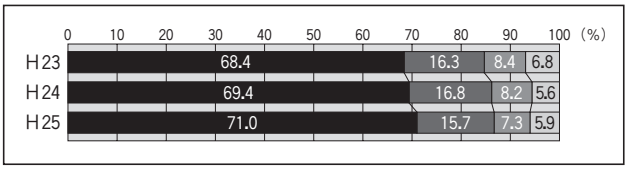
・ふだんの起床時刻について，午前７時より前に起きる児童の割合は90.0％であり，調査開始以来最も高い。
・ふだんの就寝時刻について，「午後９時以降，10時より前」と答えた児童の割合が51.5％と最も高い。

10　どのくらいあてはまりますか。

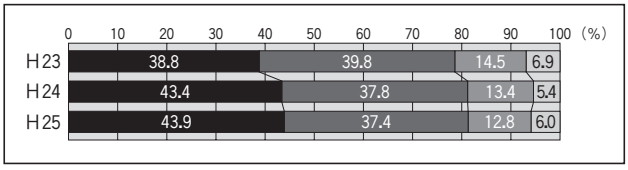
《学校のきまりを守っている》



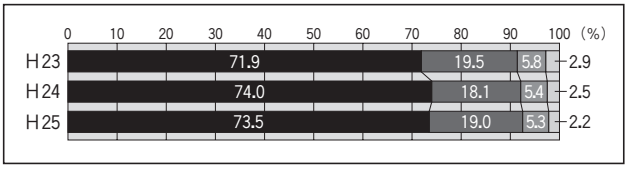
《将来の夢や目標を持っている》



《自分には，よいところがある》



《ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある》



・《学校のきまりを守っている》《将来の夢や目標を持っている》《ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある》について，「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は，それぞれ92.0％，86.7％，92.5％であり，これまでと同様に高い。

２　学習・生活状況と正答率との関係

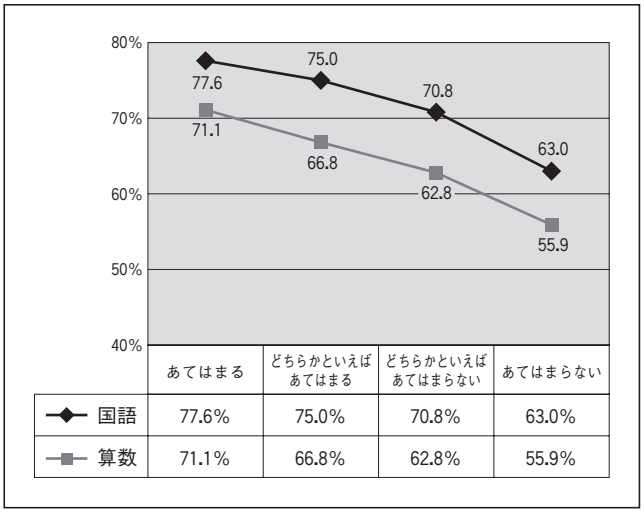
○ 次のような学習・生活状況の場合，国語でも算数でも正答率が高い傾向が認められる。

・国語・算数の授業の内容はよくわかる。
・算数の問題の解き方がわからないときは，あきらめずにいろいろな方法を考える。
・算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている。
・課題について，自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強することは好きだ。
・学校の宿題をしている。
・ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある。

○ その他，小４児童の各教科の正答率や学習・生活状況に関する項目の関係を分析すると，次のようにまとめられる。

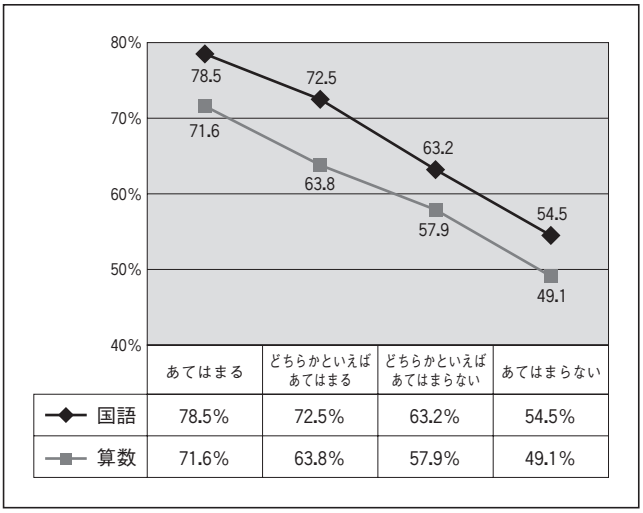
・これまでと同様に，国語と算数の正答率は相互に関連が強い。
・各教科の勉強が好きという項目と授業内容がよくわかるという項目への回答は，かなり関連がある。
・自分の考えを発表したり話し合ったりすることが好きという項目と国語の授業で自分の考えを話したり書いたりしているという項目への回答は，かなり関連がある。

《国語・算数の勉強は好きだ》



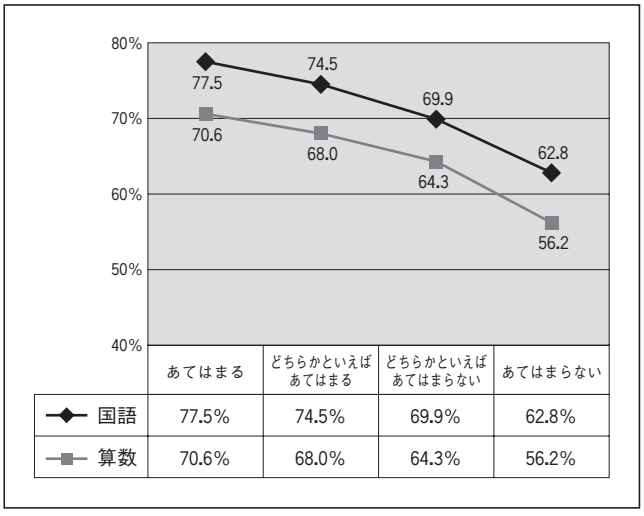
	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
国語	77.6%	75.0%	70.8%	63.0%
算数	71.1%	66.8%	62.8%	55.9%

《国語・算数の授業の内容はよくわかる》



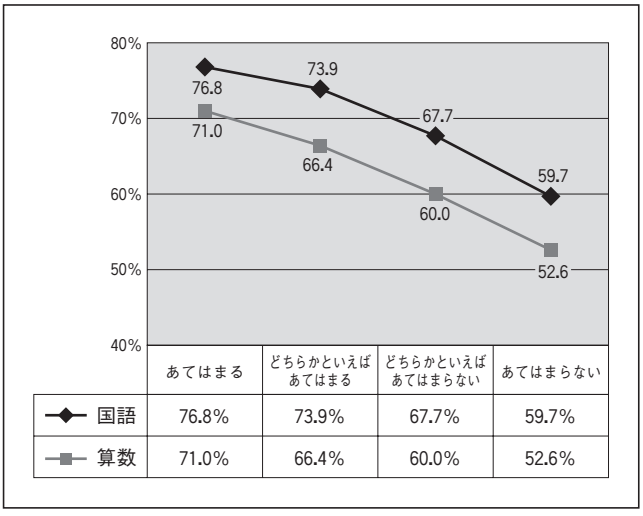
	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
国語	78.5%	72.5%	63.2%	54.5%
算数	71.6%	63.8%	57.9%	49.1%

《国語の授業で自分の考えを話したり，書いたりしている》



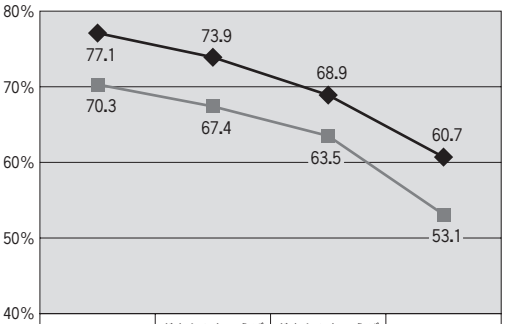
	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
国語	77.5%	74.5%	69.9%	62.8%
算数	70.6%	68.0%	64.3%	56.2%

《算数の問題の解き方がわからないときは，
あきらめずにいろいろな方法を考えている》



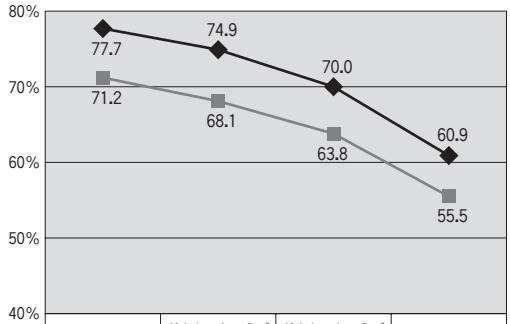
	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
国語	76.8%	73.9%	67.7%	59.7%
算数	71.0%	66.4%	60.0%	52.6%

《算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている》



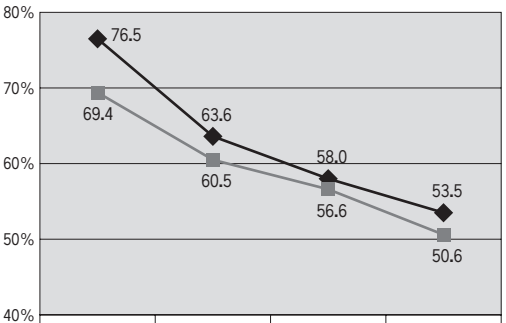
	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
国語	77.1%	73.9%	68.9%	60.7%
算数	70.3%	67.4%	63.5%	53.1%

《課題について，自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



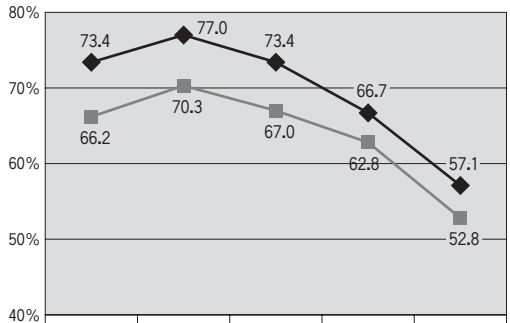
	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
国語	77.7%	74.9%	70.0%	60.9%
算数	71.2%	68.1%	63.8%	55.5%

《学校の宿題をしている》



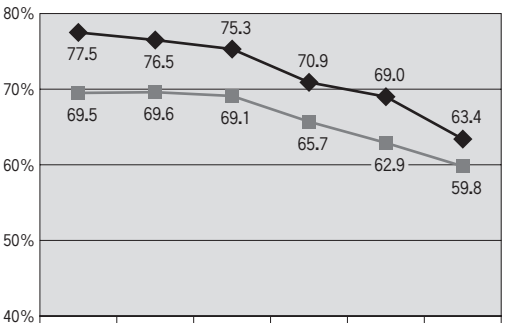
	している	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない
国語	76.5%	63.6%	58.0%	53.5%
算数	69.4%	60.5%	56.6%	50.6%

《あなたは，ふだん（月曜日から金曜日），何時ごろにねますか》



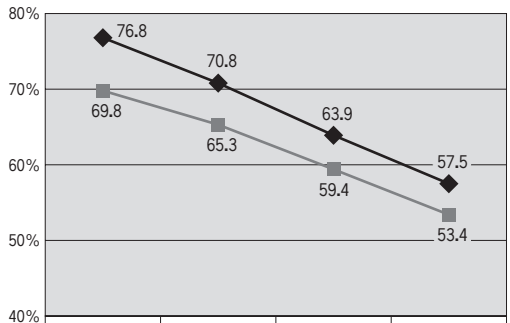
	9時以前	9時以降	10時以降	11時以降	12時以降
国語	73.4%	77.0%	73.4%	66.7%	57.1%
算数	66.2%	70.3%	67.0%	62.8%	52.8%

《ふだん（月曜日から金曜日），1日あたりどれくらいの時間テレビゲームをしますか》



	全くしない	1時間より少ない	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
国語	77.5%	76.5%	75.3%	70.9%	69.0%	63.4%
算数	69.5%	69.6%	69.1%	65.7%	62.9%	59.8%

《ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある》



	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
国語	76.8%	70.8%	63.9%	57.5%
算数	69.8%	65.3%	59.4%	53.4%

3　教員の調査結果

24年度と同様に，調査された項目の多くで肯定的な回答が見られた。特に中学校では，24年度の伸びに加えて，今年度も3.0ポイント以上増加した項目が５つある。例えば，「生徒が学習の見通しを立てたり，学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた指導をしている」教員の割合が4.8ポイント，「個に応じた指導として，習熟の早い児童生徒に発展的な学習の指導をしている」教員の割合が3.6ポイント増加するなど，授業改善に向けての意識が高まってきている。

また，24年度に比べて改善が見られるものとしては，「コンピュータなどを使って，資料を拡大したり，デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている」教員の割合が，小学校で5.9ポイント，中学校で4.1ポイント増加している。

学びの指針 1～3

○ 活用力を育成する指導をしている教員の割合は，小学校，中学校ともに増加しており，授業づくりに際し，「課題設定や授業展開，教材・教具の開発など，学習の意欲の向上を図るための工夫をしている」教員の割合は，95%以上とかなり高い。

○「考えの根拠や筋道を明確にして，説明や論述ができるように指導をしている」教員の割合は，小学校で91.2%，中学校で76.5%であり，年々増加してきている。

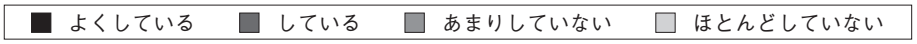
学びの指針 6

○「児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は，小学校・中学校ともに90%以上であり，23・24年度と同様に高い。

○「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して，学び合う場を設定している」教員の割合は，小学校で97.8%と例年同様に高く，中学校で91.4%と24年度より3.7ポイント増加している。

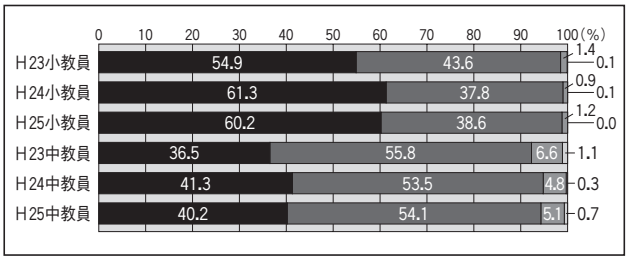
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

1　次の指導を，昨年度からどの程度行っていますか。

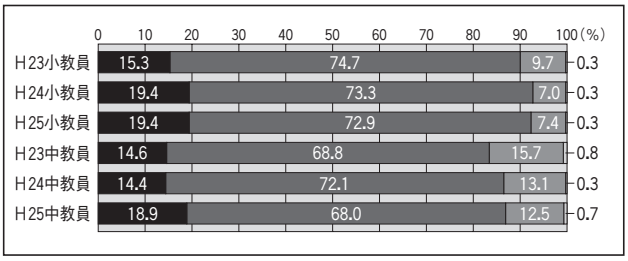


【学力の重要な要素に関すること】

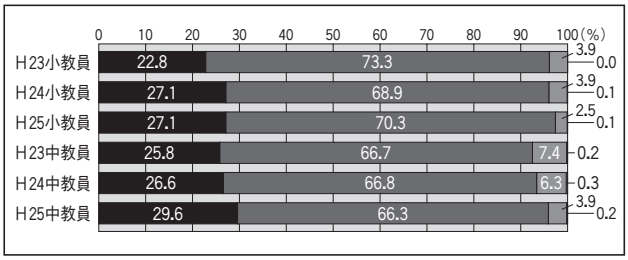
《繰り返し学習（音読，暗記・暗唱，反復学習など）を通して，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習，実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して，活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開，教材・教具の開発など，学習意欲の向上を図るための工夫をしている》

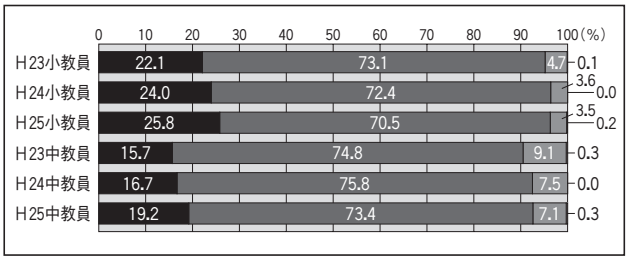


・《繰り返し学習を通して，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》と答えた小学校教員の割合は，98.8%と高い。中学校教員の割合も94.3%と同様に高い。

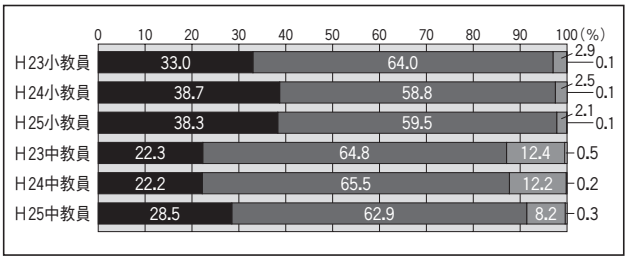
・《問題解決的な学習，実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して，活用力を育成する指導をしている》《課題設定や授業展開，教材・教具の開発など，学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について，「よくしている」と答えた中学校教員の割合が24年度より，それぞれ4.5ポイント，3.0ポイント増加している。

【教科等に関すること】

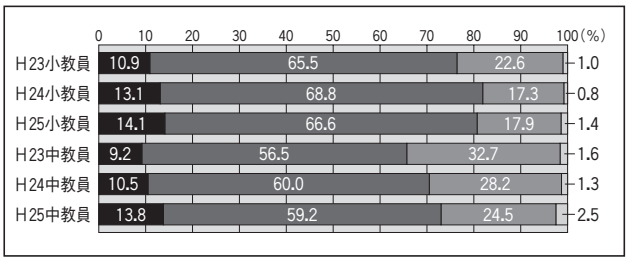
《児童生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている》



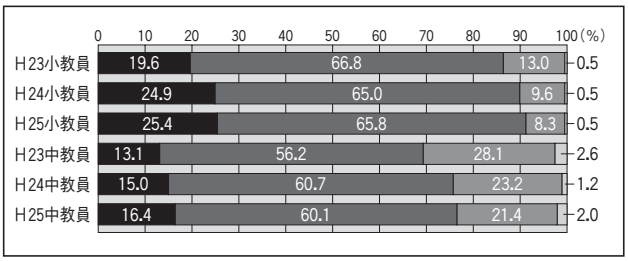
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して，学び合う場を設けている》



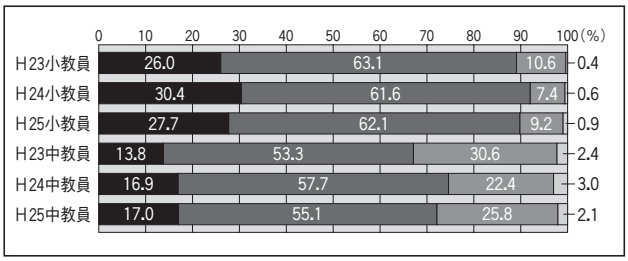
《記録，要約，説明，論述などの言語活動を重視した指導をしている》



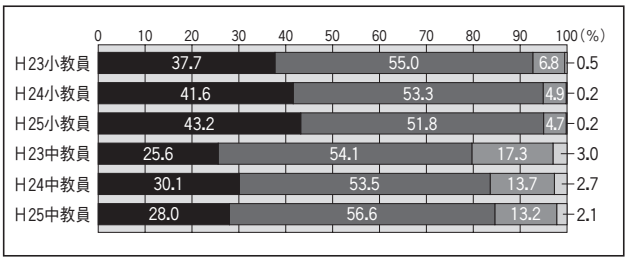
《考えの根拠や筋道を明確にして，説明や論述ができるように指導をしている》



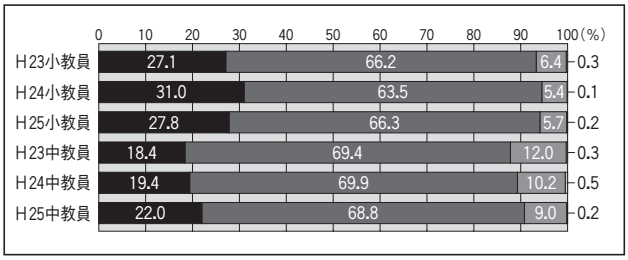
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して，考え方を身に付けさせる指導をしている》



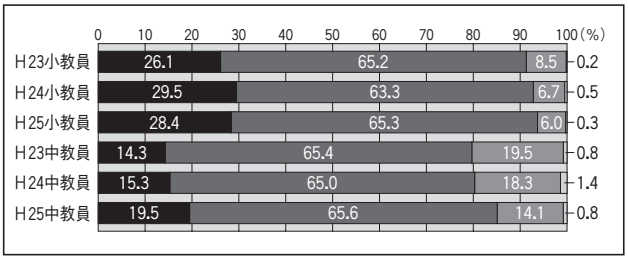
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



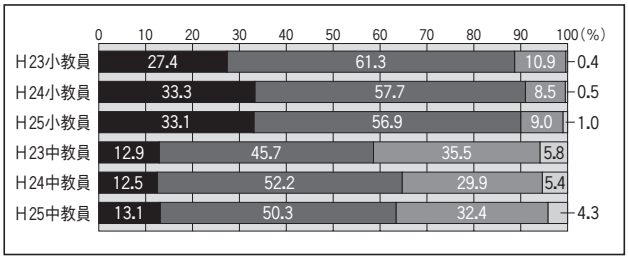
《児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている》



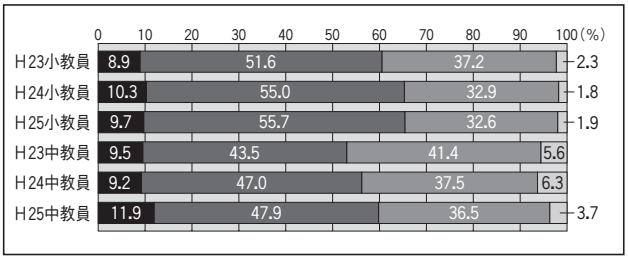
《児童生徒が，学習の見通しを立てたり，学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた指導をしている》



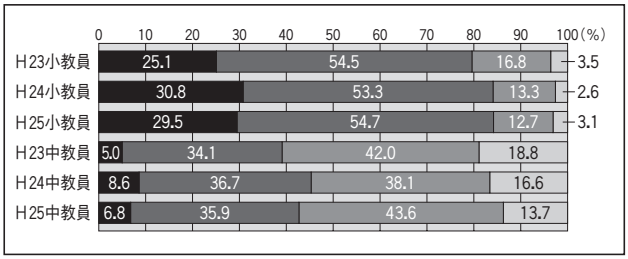
《個に応じた指導として，習熟の遅い児童生徒に，補充的な学習の指導をしている》



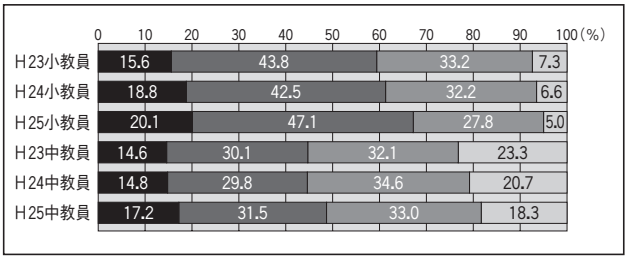
《個に応じた指導として，習熟の早い児童生徒に，発展的な学習の指導をしている》



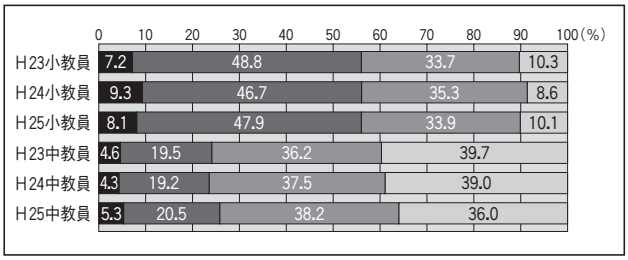
《休み時間や放課後など授業時間以外に，習熟の遅い児童生徒に，補充指導をしている》



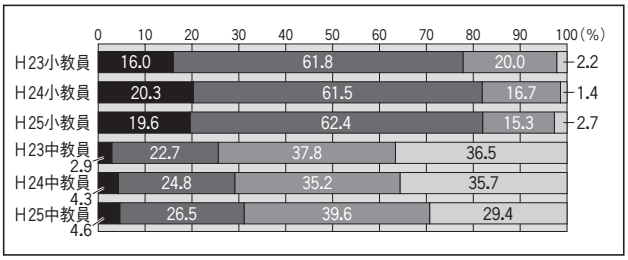
《コンピュータなどを使って，資料を拡大表示したり，デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》



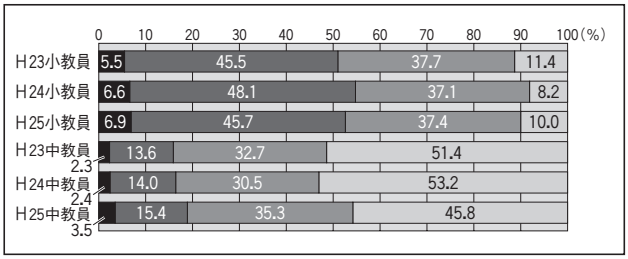
《児童生徒がコンピュータを使う学習活動を取り入れた指導をしている》



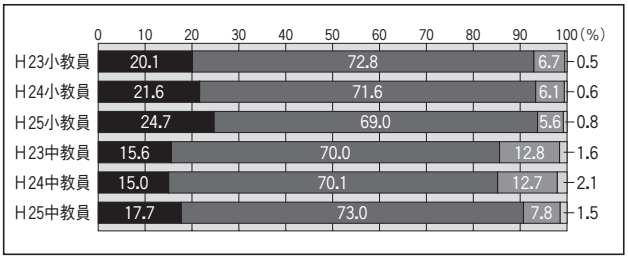
《学校図書館を活用した指導をしている》



《外部の人材を活用した指導をしている》



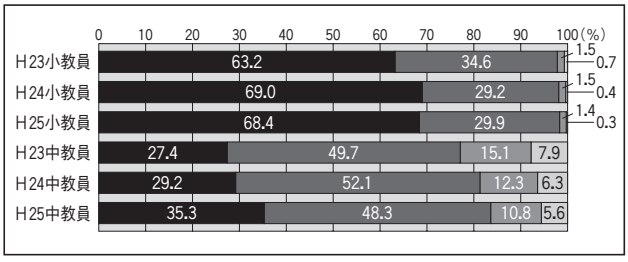
《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



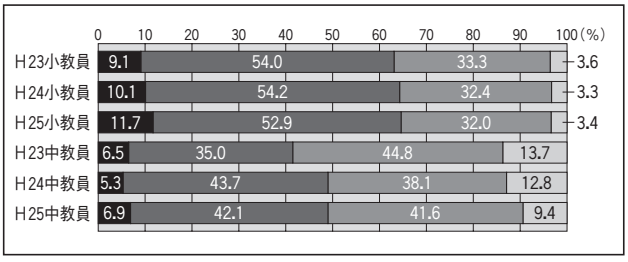
・《児童生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して，学び合う場を設けている》《児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている》《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》について，「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は93.7～97.8％，中学校教員の割合は90.7～92.6％と，他の項目より高いのは，24年度と同様である。
・《児童生徒が学習の見通しを立てたり，学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた指導をしている》について，「よくしている」「している」と答えた教員の割合は，小学校で93.7％，中学校で85.1％であり，24年度と同様に高い。また，「よくしている」と答えた中学校教員の割合は24年度より4.2ポイント増加している。
・《個に応じた指導として，習熟の早い児童生徒に，発展的な学習の指導をしている》について，「よくしている」「している」と答えた中学校教員の割合は，24年度より3.6ポイント増加している。
・《コンピュータなどを使って，資料を拡大表示したり，デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》について，「よくしている」「している」と答えた教員の割合は，24年度より，小学校で5.9ポイント，中学校で4.1ポイント増加している。

【家庭学習に関すること】

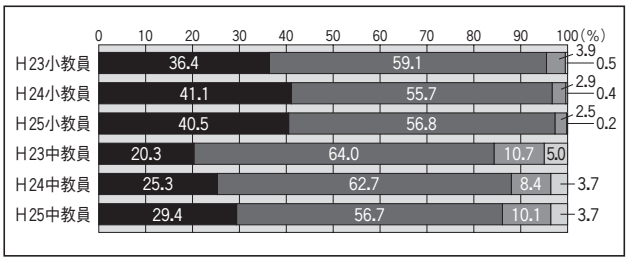
《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》



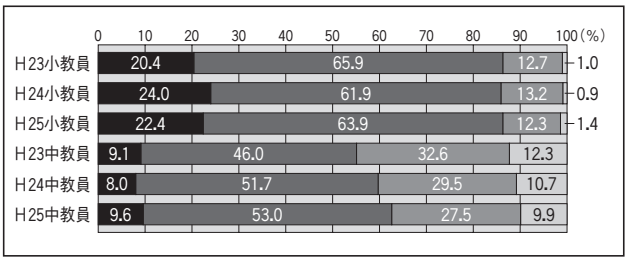
《授業の内容と関連させて，調べさせたり，発展的に考えさせたりするための宿題を出している》



《児童生徒が取り組んだ宿題について，評価・指導を行っている》



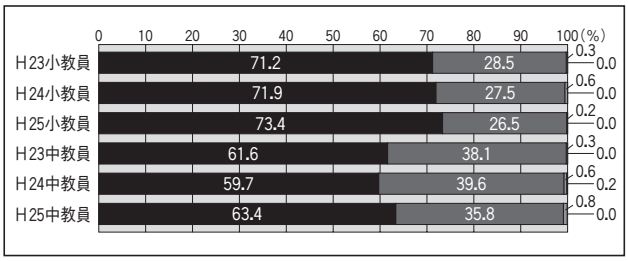
《保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》



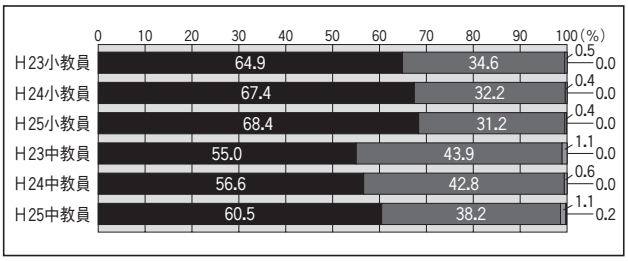
・《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》について，「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は98.3％であり，24年度と同様に高い。「よくしている」と答えた中学校教員の割合は，24年度より6.1ポイント増加している。
・《児童生徒が取り組んだ宿題について，評価・指導を行っている》について，「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は97.3％で24年度と同様に高い。また，「よくしている」と答えた中学校教員の割合は，24年度より4.1ポイント増加している。

【学習規律等に関すること】

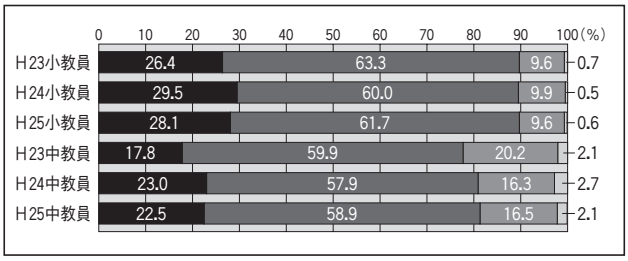
《私語をしない，相手を意識して話す・聞く，授業開始の時刻を守るなど，学習規律の指導をしている》



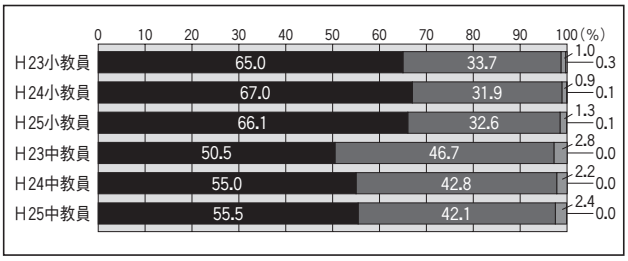
《児童生徒に，校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》



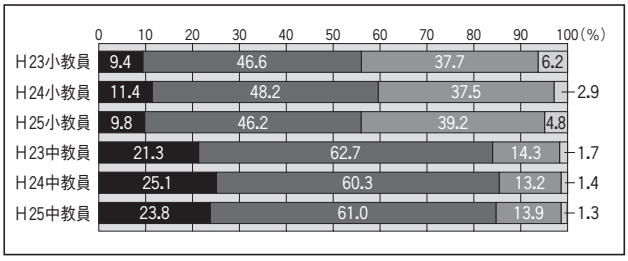
《児童生徒に，早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など，基本的な生活習慣の指導をしている》



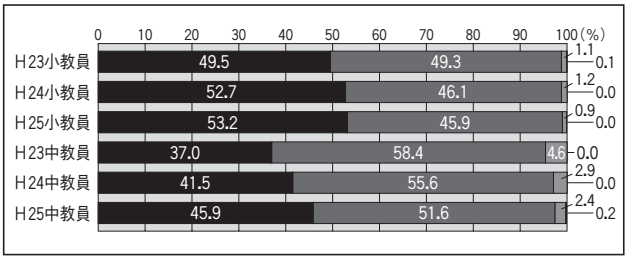
《児童生徒に，進んであいさつをするよう指導をしている》



《児童生徒に，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》

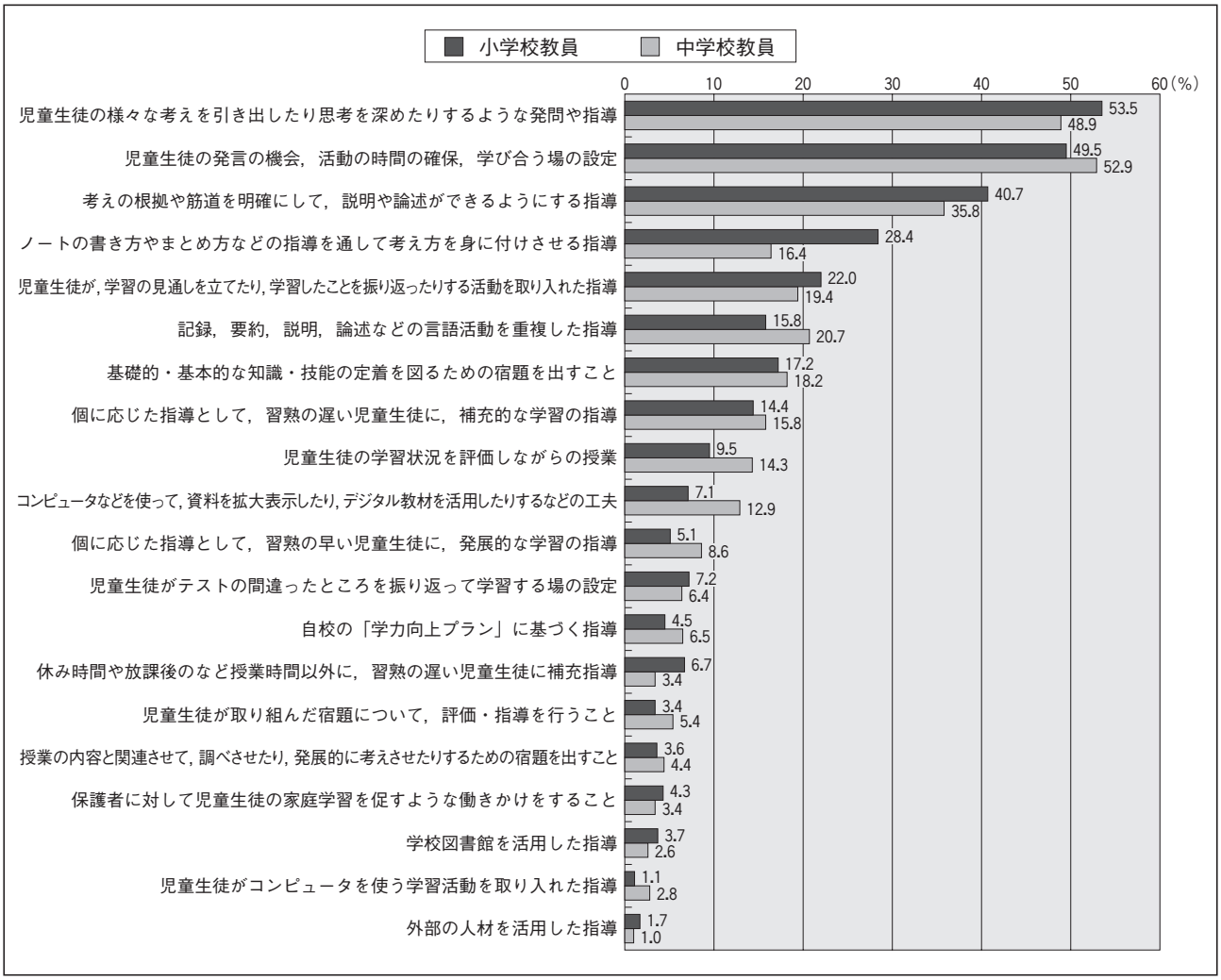


《児童生徒をほめたり，励ましたりしながら，長所を伸ばす指導をしている》



・《私語をしない，相手を意識して話す・聞く，授業開始の時刻を守るなど，学習規律の指導をしている》《児童生徒に，校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》《児童生徒に，進んであいさつをするよう指導をしている》《児童生徒をほめたり，励ましたりしながら，長所を伸ばす指導をしている》について，「よくしている」「している」と答えた教員の割合は97.5％以上であり，24年度と同様に高い。
・《児童生徒に，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》について，「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は，56.0％と24年度より3.6ポイント下回り，23年度と同程度である。

2　これからの指導において，特に重点をおきたいもの３つはどれですか。



・これからの指導において特に重点をおきたいものについて，《児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導》《児童生徒の発言の機会，活動時間の確保，学び合う場の設定》《考えの根拠や筋道を明確にして，説明や論述ができるようにする指導》が上位であることは，24年度と同様である。

平成25年度
「基礎学力調査」－分析・考察－
平成25年10月発行
石川県教育委員会事務局学校指導課
〒920-8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
TEL 076-225-1826
e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp